

2016年度
新潟大学教育学部 年報
THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

ANNUAL REPORT

15

新潟大学教育学部

教育学部年報2016目次

1. イベント・カレンダー	1
1.1 教育学部	
1.2 附属学校	
2. 特色ある教育活動	4
2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要	
2.2 「フレンドシップ実習」の概要	
2.3 入門教育実習	
2.4 佐渡実習	
2.5 研究教育実習	
2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業及び関連事業	
2.7 教育実習	
2.8 介護等体験	
2.9 学校インターンシップ	
2.10 インターンシップ ・企業等インターンシップ	
2.11 各課程の特色ある教育活動	
2.12 中・高校生等の大学見学	
2.13 出前講義	
3. 就職支援	32
3.1 教員志望学生向け特別講座	
3.2 教員採用試験対策支援プログラム	
3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス	
3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス	
3.5 臨時教員希望者への就職支援	
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス	
3.7 教育学部就職情報ホームページ	
3.8 教職サポートルーム	
4. 学部FD	43

5. 地域貢献	44
5.1 12年研修	
5.2 市民・教員を対象とした公開講座	
5.3 教育委員会との連携事業	
5.4 委員就任状況	
6. 国際交流	50
6.1 学部教育の国際化事業	
6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）	
7. 附属施設の活動	55
7.1 附属新潟小学校	
7.2 附属新潟中学校	
7.3 附属特別支援学校	
7.4 附属幼稚園	
7.5 附属長岡小学校	
7.6 附属長岡中学校	
8. 外部資金	74
8.1 科学研究費助成事業	
8.2 寄附金	
8.3 受託研究および受託事業	
8.4 共同研究	
9. 教員・教育研究業績	76

〔巻末資料〕

- 入学状況（学部）
- 入学状況（大学院）
- 就職状況
- 附属学校在学状況

1. イベントカレンダー

1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	5日	新潟大学入学式, 教育学部新入生保護者懇談会
	6日	教育学部学年別ガイダンス (1年次, 3年次), 大学院教育学研究科新入生ガイダンス
	7日	教育学部学年別ガイダンス (2年次, 4年次)
	8日	介護等体験事前指導
	9日	黎明祭
	11日	第1学期開始
	26日	教採合格ガイダンス (4年次学生向け)
5月	25日	教員採用試験支援プログラム (特別支援教育, 理科実験 (～6/24まで随時実施))
	27日	教員採用試験支援プログラム (教員採用検査合格者 (卒業生) による模擬授業の見学)
6月	1日	新潟大学永年勤続者表彰式
	6日	春期教育実習 (～6/17)
	22日	新潟大学名誉教授称号授与式
	23日	教育学部後援会役員会
	25日	大学院教育学研究科 (教職大学院) 入試説明会
7月	29日	教員採用試験支援プログラム (小論文指導)
	2日	教育学部後援会理事会・総会
	4日	教員採用試験支援プログラム (模擬授業: 全6回) (～7/20)
	9日	新潟市立学校教員採用選考検査 (第1次検査) (～7/10)
8月	10日	新潟県公立学校教員採用選考検査 (第1次検査)
	23日	教員免許状更新講習 (～10/23)
	1日	第1学期定期試験 (～8/5)
	1日	教職12年経験者研修 (～8/23)
	2日	教員採用試験支援プログラム (場面指導)
	9日	新潟大学オープンキャンパス (～8/10)
	11日	夏期休業 (～9/30)
	16日	学校図書館司書教諭講習 (～8/25)
	19日	新潟市立学校教員採用選考検査 (第2次検査) (～8/21)
	19日	新潟県公立学校教員採用選考検査 (第2次検査) (～8/22)
9月	22日	免許法認定講習 (特別支援教育 10/1)
	3日	大学院教育学研究科 (教職大学院) 入学試験
	5日	観察・参加実習 (～9/9)
	12日	キャリア支援ガイダンス (2年次学生向け)
	15日	大学院教育学研究科 (教職大学院) 入学試験 合格者発表
	20日	秋季卒業式
10月	24日	免許法認定講習 (小学校英語 ～3/4)
	28日	全学就職総合ガイダンス
	3日	秋季入学式, 第2学期開始
	19日	教員採用試験受験者向けガイダンス (3年次学生向け)
11月	22日	新潟大学We e K 2016 (～10/30)・新大祭 (～10/23)
	24日	秋期教育実習 (～11/4)
	22日	教育実習運営協議会
12月	26日	推薦入学試験, 養護教諭特別別科入学試験, 大学院教育学研究科 (教職大学院) 第2次募集入学試験
	29日	公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー
	13日	新潟県教育委員会と教育学部との連携推進協議会
	14日	養護教諭特別別科入学試験, 大学院教育学研究科 (教職大学院) 第2次募集入学試験 合格者発表
1月	16日	教員採用試験支援プログラム (教員採用試験の最新動向と対策ガイダンス)
	24日	冬期休業 (～1/6)
	6日	新潟市教育委員会と教育学部との教育懇談会
2月	10日	授業開始
	14日	大学入試センター試験 (～1/15)
	19日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会
	6日	推薦入学試験 合格者発表
3月	8日	第2学期定期試験 (～2/14)
	25日	新潟大学入学試験 (前期日程) (～2/26)
	8日	新潟大学入学試験 (前期日程) 合格者発表
	9日	教育学部後援会理事会
	11日	春期休業 (～3/31)
3月	12日	新潟大学入学試験 (後期日程)
	22日	新潟大学入学試験 (後期日程) 合格者発表
	23日	新潟大学卒業式, 教育学部卒業祝賀会

1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》

《 附属新潟中学校 》

《 附属特別支援学校 》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	1学期始業式・入学式	7	着任式, 始業式, 入学式	8	新任式・第1学期始業式
	28	全校参観日	8	新入生歓迎会	11	入学式
			19	全国学力・学習状況調査	20	高等部3年修学旅行(～22)
					22	中学部・遠足
5	21	附属大運動会	14	ときわ体育祭	10	小学部・遠足
	26	胎内自然教室(4年)(～5/27)	30	春期教育実習(～6月10日)	11	第1回避難訓練
			31	新潟市陸上大会(～6月1日)	28	運動会入門教育実習①
6	6	春期教育実習(～17日)	3	完歩大会	6	春期教育実習(～17)
	10	下学年角田登山	7	新潟市体育大会(～8日)	20	高等部職場実習(～7/8)学校説明会①
	22	全校参観日	20	演劇鑑賞教室	27	学校説明会②
			23	新潟地区陸上大会(～24日)		
			29	新潟地区各種大会(～30日)		
7	13	佐渡自然教室(5年)(～15日)	7	通信陸上大会	7	中学部校内宿泊学習(～8)
	21	1学期終業式	13	全学年懇談会(～19日)	14	高等部校内宿泊学習(～15)
	26	市陸上記録会	21	1学期終業式	22	第1学期終業式
			25	県総合体育大会(～26日)		
8	2	新潟市水泳記録会	3	北信越総合体育大会(～5日)	19	全校登校日入門教育実習②
	29	2学期始業式	10	県内附属学校園合同部会	20	高登校日
			17	全国中学校体育大会(～25日)		
			25	2学期始業式		
9	5	2年次観察参加実習(～9日)	5	2年次教育実習(～9日)	1	第2学期始業式
	13	立山自然教室(6年)(～16日)	17	演劇発表会	6	高特体連スポーツ大会
			30	新潟市総合体育大会(陸上)	9	第2回避難訓練
					15	中学部3年修学旅行(～16)
10	15	附属ミュージアム	7	新潟市総合体育大会	17	入学者選考検査
	24	秋季教育実習(～11月4日)	21	教育研究発表会	21	入学許可者公示
	26	クロスカントリーin母の森	24	秋期教育実習(～11月4日)	24	秋期教育実習(～11/4)
11	19	附属ミュージックステーション	6	学校説明会	16	小・中学部なかよし運動会
			19	音楽のつどい		
12	3	新1年生入学選考(6日)	1	全学年懇談会(～7日)	2	特別支援教育研究会
	20	2学期終業式	6	生徒会立会演説会	14	高等部宿泊学習(～15)
			7	生徒会役員選挙	22	第2学期終業式
			10	入学選考検査(～11日)		
			17	合格発表		
1	10	3学期始業式	6	3学期始業式	10	第3学期始業式
			25	3学年進路懇談会(～27日)	13	高学部スキー教室
					16	新入生保護者説明会
					28	すなやま祭
2	9	初等教育研究会(～10日)	9	1学年東京班別学習(～10日)	3	小学部そり教室
	23	5年生スキー授業	28	同窓会入会式	6	高等部体験入学
	24	6年生スキー授業			7	中学部体験入学
					8	小学部体験入学
3	9	6年生を送る会	4	第69回卒業証書授与式	17	中学部スキー・そり教室
	23	3学期終業式	7	2学年台湾の旅(～10日)	2	小学部6送会, 中・高等部3送会
	24	第70回卒業証書授与式	7	公立高校一般選抜検査(～8日)	16	卒業式
			17	3学期終業式	17	第3学期終業式
		28	離任式	27	離任式	

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

日	事 項	日	事 項	日	事 項
7	着任式, 1学期始業式, 入学式	6	着任式, 始業式	7	1学期始業式
13	全校仲良しの会	7	入学式, 1年PTA入会式	8	入園式
20	学習参観日	11	2・3年PTA, 学校運営説明会	25	こんにちはの会
		12	学友会入会式	27	交通安全教室
		15	オープンスクール, PTA・後援会総会		
9	研究会事前打合せ	13	クラスマッチ(1), 学友会計画総会	25	校園合同教育研究協議会
25	教育研究協議会	25	教育研究協議会		
		31	市内各種大会		
5	春期教育実習(～17日)	1	市内各種大会	1	入門教育実習①
20	学習参観日(心の教育)	6	春季教育実習(～17日)	6	春期教育実習(～17)
22	校園合同避難訓練	23	中越地区各種大会(～30日)	18	家族参加日(土曜参観)
23	4年サマースクール(～24日)			22	合同避難訓練
	1～3年わくわく発見遠足			30	入門教育実習②
29	栖吉川フェスティバル				
4	6年三者面談(～8日)	2	地区懇談会	4	七夕飾り付け
9	オープンスクール・学校説明会・学習参観日	11	オープンスクール・進路指導説明会	14	1学期終業式
12	初任者研修①	21	成果を語る会		
19	児童引き渡し訓練	22	中越地区吹奏楽コンクール		
20	5・6年立山自然教室(～23日)	25	県総合体育大会(～26日)		
27	家庭訪問(～29日)	27	保護者面談(～29日)		
7	親善水泳大会(4～6年)	3	北信越大会(～5日)	25	2学期始業式
		4	県吹奏楽コンクール		
		10	県内附属合同研修部会		
		17	全国中学校体育大会(～25日)		
		20	PTA校園整備活動		
		22	抱負を語る会, 授業開始		
		27	学校説明会		
3	校園大運動会(校園合同)	3	校園大運動会	3	校園合同運動会
5	観察参加実習(～9日)	5	観察・参加実習(～9日)	15	交通安全教室
15	親善陸上大会(6年)			26	入園選考説明会
16	避難訓練②			28	入門教育実習③
20	初任者研修②				
21	マラソン記録会				
7	1学期終業式	5	新人各種大会(～6日)	4	探検遠足
11	2学期始業式	14	中間検討会	14	避難訓練
17	願書受付開始	17	中間検討会	17	入園選考日(～18日)
24	秋期教育実習(～11/4)	24	秋季教育実習(～11/4)	24	秋期教育実習(～11月4日)
9	親善音楽会(6年)	2	音楽発表会	19	作品展
12	校内音楽会	14	オープンスクール・進路説明会	28	県新採用教員研修会(～29日)
18	願書受付締切	17	生徒会役員選挙	30	避難訓練
26	入学選考検査	28	クラスマッチ(2), 学友会総会		
29	選考検査結果発表	29	3年三者面談(～12/2)		
2	個別懇談(～6)	10	入学者選考検査(結果発表17日)	13	家族参観日・餅つき
16	仲良しフェスティバル	20	成果を語る会	16	2学期終業式
10	書き初め大会	6	抱負を語る会	10	3学期始業式
	入学選考二次募集受付開始	24	3年三者面談(～27日)	11	かるた大会
13	避難訓練③	26	1年研修旅行(東京)(～27日)	13	校園合同避難訓練
16	学習参観日			25	そり遠足
23	3・4年スキー教室				
25	1・2年そり遠足				
	入学選考二次募集検査				
26	5・6年スノースクール(～27日)				
27	入学選考二次募集検査結果発表				
6	財務省特別授業「財政教育プログラム」(6年)	4	新入生・保護者説明会	3	豆まき会
13	一日入学	10	公立高校特色化選抜検査	10	一日入園
21	学習参観(1～3年)	13	3年生を送る会	13	一日入学
22	学習参観(4・5年)	15	2年修学旅行(沖縄)(～18日)		
24	ありがとう仲良しの会				
16	2学期終業式	3	卒業証書授与式	2	ありがとうの会(5歳児への感謝の会)
17	117回卒業証書授与式	6	公立高校一般学力検査	10	3学期終業式
		17	終業式	13	第115回保育証書授与式
		27	離任式		

2. 特色ある教育活動

2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要（2016年度）

No	名称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内容	目標
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1)地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2)教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1)教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2)教育実習に直結する力量形成の出发点を形成する。
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1)学校における教育活動への参加・観察を行う(3回程度)。 (2)参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3)その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1)学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2)専門教育を受けるための準備段階を形成する。
3	佐渡実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成25年度	(1)佐渡市立河崎小学校及び同学区の久知八幡宮例祭の中で、子どもの支援にあたり、地域の人たちとの協働して祭りに参加する。 (2)参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3)その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1)学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2)専門教育を受けるための準備段階を形成する。 (3)地域と密着した学校教育の在り方を理解し、地域住民との交流を深める。
4	観察・参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度 (現在の体制による実施開始年度)	(1)附属学校における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2)参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3)3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1)学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2)3年次「教育実習」の準備段階を形成する。
5	教育実習 (主専攻、副専攻)	3、4年次生	教育実習委員会		(1)教育課程の理解、(2)各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3)学級経営の理解、(4)生徒指導の理解、(5)幼児・児童・生徒の理解、(6)実践研究の方法の理解、(7)その他。	(1)教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2)実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3)研究課題を発見させ追求させる。
6	研究教育実習	4年次生、大学院生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1)単元の指導力、研究力量を形成する。 (2)教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。
7	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める
8	子どもふれあいスクール事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。	
9	見附市教育委員会「新潟大学連携学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。	
10	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小中学校において、教育活動の補助を継続的に行う。	
11	燕市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成24年度	燕市内の小中学校において、教育活動の支援を行う。	
12	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1)実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2)教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。

実施時期、期間	関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
通年	公民館、学童保育施設、少年センター等	50名	41名	「教育実践体験研究Ⅰ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)「教員養成学部フレンドシップ事業」(文部省(当時)、平成9年度開始)に連動する授業科目として設定(「教育実践体験研究Ⅰ」)。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2)平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
通年	附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	100名	125名	「教育実践体験研究Ⅱ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2)平成11～14年度においては、既存の授業科目(教育実践研究関連科目)により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
通年(実習は9月集中)	佐渡市立河崎小学校、NPO法人佐渡芸能伝承機構	5名	7名	「教育実践体験研究Ⅳ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)平成25年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環として実施。 (2)新潟県の地域特性を考慮し、離島における実習として実施。
9月、5日間	附属学校(4校)		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計296名	「教育実習事前・事後指導」(2単位、学校教員養成課程においては必修)の一環を構成	(1)教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
春期・秋期、各2週間、総計4週間	附属学校園、協力校園 総計(のべ)198校		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計(のべ)787名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	附属校園、新潟・長岡市内の公立幼稚園、小学校、中学校および出身校にて、2週間または4週間の教育実習を行っている。
通年	附属学校、協力校	特に設定しない	33名(大学院生6名を含む)	各教科において多様な形で設定。	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」(3年次対象)および「総合教育実習」(4年次対象)を実施。 (2)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
通年	新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、小学校、中学校	123校、237人(派遣要請総数)	83校、140名(大学院生7名を含む、新潟青陵大学・県立大学からの派遣数は含まない)	「教育実践体験研究Ⅲ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)平成17年度より新設。	(1)平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2)平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成(カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」)。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5)平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定(平成17年6月締結)による事業の一環を構成。 (6)平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7)平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。 (8)平成26年度から新潟県立大学からの派遣も開始。
通年	新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課	特に設定しない	9校、23名	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計11校(江南、鳥屋野、満日、小針、新通、内野、笠木、五十嵐、西内野)に、ボランティア・スタッフとして学生を派遣した。
通年	見附市教育委員会見附市立小・中・特別支援学校	特に設定しない	参加者なし	特に設定しない	昨年度まで、7月～9月に実施される補充学習の個別指導、自然教室、水泳指導等に学生を派遣依頼があった。今年度は、依頼がなかった。
通年	三条市教育委員会・小中一貫教育推進課、三条市立小中学校	特に設定しない	4校、4名	特に設定しない	三条市立上林小学校、旭小学校、第一中学校、第三中学校に対して、学習の個別支援補助、休み時間の遊び、放課後子ども教室での活動等に学生を派遣した。
通年	燕市教育委員会学校教育課、燕市立小・中学校	特に設定しない	7校、のべ14名	特に設定しない	小学校4校(燕西小、吉田小、吉田南小、吉田北小)と中学校3校(燕北中、吉田中、分水中)に対して、学習支援(授業補助、特別な支援が必要な児童・生徒の学習の支援)、行事やイベントの補助、部活動の補助に派遣した。 また、市教育委員会の事業(小学校5年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室)に1名を派遣した。
通年	附属学校園、協力校園	特に設定しない	5名	「学校インターンシップ」(教育実践共通科目、選択必修、2単位)	(1)平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」(研究科共通科目、必修、2単位)の一環として実施。 (2)平成20年度におけるカリキュラム改革により、対応する授業科目を現在の形に独立させた。 (3)平成20年度から、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業と連動。

2.2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で20年目を迎えた。主に、教育学部学校教員養成課程1,2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている（本実習は、広く他課程や全学部に向けて開かれているが、学校教員養成課程以外の学生参加はごく僅かである）。

入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクールなどの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

今年度は、グループ体験コース、子どもふれあいスクール体験コース、中学生キャリア教育交流コースの計3コース（募集人数50名程度）を開設した。1年次学生だけでなく、2年次以降の学生も多く見られるようになった。

平成28年度「フレンドシップ実習」コース月活動内容についての一覧

コース名	担当教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	参加学生数
① 子どもふれあいスクール体験コース	大平淳一	1学期から毎週、定期的・継続的に学校を訪問して実施している。	市教委と連携し放課後や土曜日午前中に学校施設内で子どもと遊び等を通してふれあい	内野小学校 五十嵐小学校 日和山小学校 西内野小学校 青山小学校 関屋小学校	9名
② グループ体験コース	松井賢二	個別実習 9月に数回 全体実習 8月26日（金）	ひまわりクラブと連携し学生企画の遊びで交流	西内野ひまわりクラブ 新通ひまわりクラブ	19名
③ 中学生キャリア教育交流コース	大庭昌昭 宮蘭 衛	8月、11月、2月 計3回	中学生との交流を通して、キャリアを考える手助けをする	こども自然王国 青葉台中学校	11名
全体発表会	松井賢二 大平淳一 大庭昌昭 宮蘭 衛	12月22日（木） 16：25～18：00	各コースの活動発表会を学生主体に実施	教育学部 105講義室	約40名

2.3 「入門教育実習」——1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（選択、2単位）が設置されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて18年目にあたる。平成22年度から、教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」実施専門部会）が担当している。平成28年度においては、実習協力校12校3園、学部教員32名の受け入れ・指導体制によって実施した。

2. 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は160人、受入者は125人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。《コース》は、学生11～15名、学部教員3名、実習校担当教員1～3名によって構成される。なお、平成24年度から、「(J) 燕市立小・中学校訪問コース」（定員10名）を新設し、カリキュラムの充実、受け入れ態勢の強化を図っている。コースの名称と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	15名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	11名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	12名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	15名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	13名
(D) 幼稚園訪問コース	12名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名	(J) 燕市立小・中学校訪問コース	11名

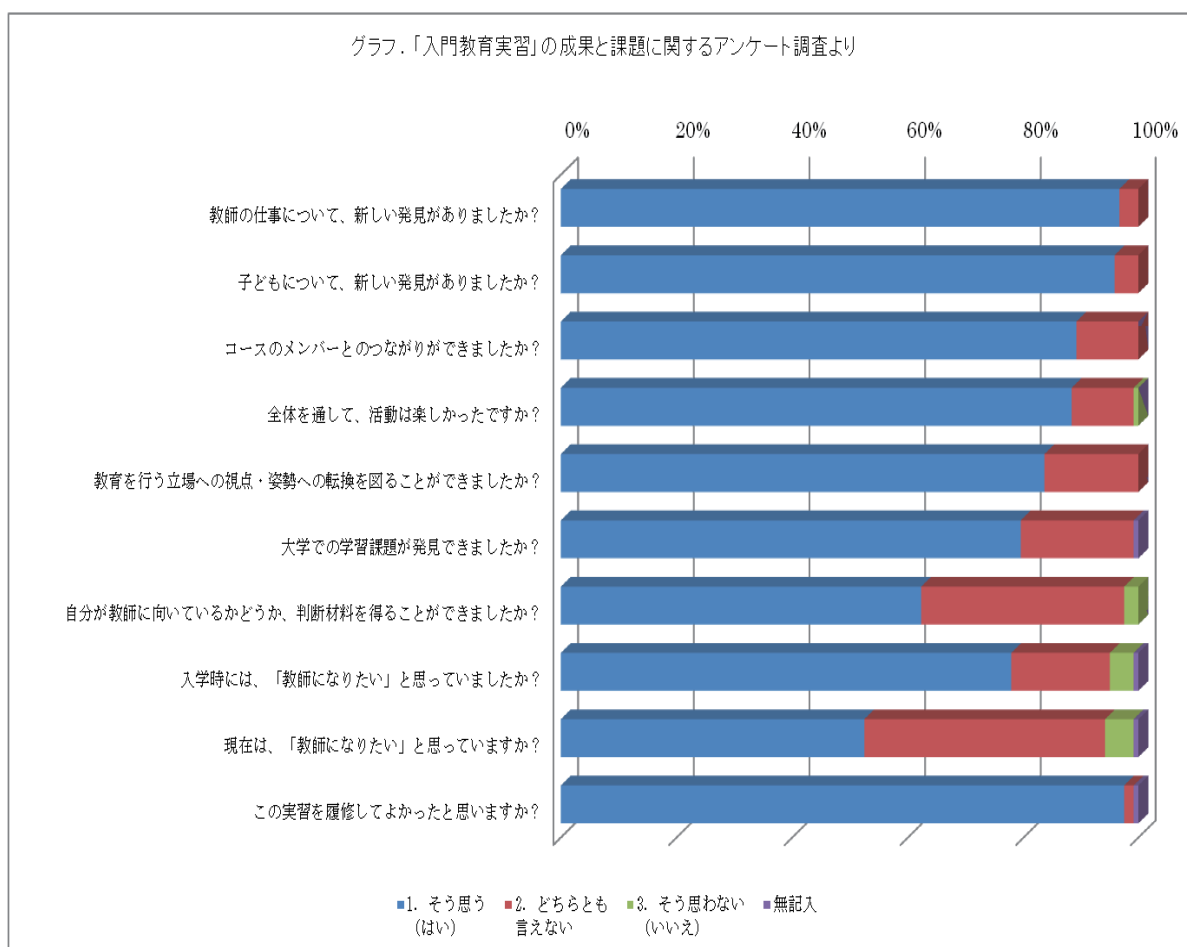
上記の体制により、学生は、4月から11月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った（各コースにおいて3回）。内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭、サマースクール（1泊2日）等である。

教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（《個別レポート》）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、12月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員4名、過去の履修経験者（4年次生）1名が出席し、学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（《総まとめレポート》）を作成・提出し、すべての活動を終了した。

3. 学生の動向

平成28年度における学校教員養成課程の入学者は232人、その内、「入門教育実習」説明会への出席者は160名、履修希望者は159名であった。これは、入学者全体の内、それぞれ、69.0%、68.5%にあたる。最終的な受入学生数は125人であり、これは履修希望者の78.6%にあたる。

平成28年度においても、報告会の機会を利用して、「入門教育実習」を履修している全学生を対象とする調査を実施した（回答数122名、回収率97.6%）。結果の一部を次に示す。



4. おわりに

「入門教育実習」については、『1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究（第17年次）』（新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編、2017年3月）に報告している。学部のホームページにも、その一部を公開している。合わせてご参照頂ければ幸いである。



実習風景（沼垂幼稚園）



実習風景（附属新潟小学校）

2.4 佐渡実習

佐渡実習は教育実践体験研究Ⅳとして開講されている授業で、入門教育実習（教育実践体験研究Ⅱ）に地域の活動を加えた複合的实践活動として行っているものである。特に近年、教育現場から子どもや父母のみならず、地域とも関われる教員が求められており、そのような教員を育てることを目指している。

本年の佐渡実習は例年通り9月8日（木）から9月11日（日）の3泊4日で実施された。森下修次、田中雄二の教員2名が引率・指導した。日程は佐渡市立河崎小学校の活動とその学区内にある久知八幡宮の例大祭によって決まる。昨年より9月15日から9月の第2日曜日付近に変更になったため、河崎小学校の活動日前日に佐渡入り、河崎小学校の活動を経て、1日おいて祭りに参加というパターンが定着した。

主な日程は次の表の通りである。なお、花笠踊り、^{どうどう}刀刀とも河崎小学校の子どもたちが主に演じる。



月 日	内 容	場 所
4月27日	第1回講義 佐渡実習の説明会と参加者決定	104講義室
6月3日	第2回講義 講師：佐渡芸能伝承機構理事長 松田祐樹氏 「佐渡の祭りについて」	121講義室
9月5日	第3回講義 出発前の最終確認	121講義室
9月8日	新潟から佐渡へ移動、河崎小学校にて挨拶、花笠踊り稽古見学	河崎小学校 城腰公民館
9月9日	河崎小学校にて活動 刀刀稽古見学	河崎小学校 野崎地区
9月10日	石名天然杉遊歩道にて大杉の見学、矢島・経島にてたらい舟体験、佐渡太鼓体験交流館にて太鼓演奏体験	佐渡全域
9月11日	下久知地区鬼太鼓見学・久知八幡宮例大祭見学と参加 新潟に戻る。	久知八幡宮周辺
12月11日	「地域活動報告会（佐渡市地域振興課主催）」にて活動報告	あいぽーと佐渡

参加学生は定員5名のところ希望者が多く、結局7名（男3名、女4名）の学生が参加した。

今年には佐渡市地域振興課主催の報告会が催された。佐渡市教育長、児玉勝巳氏の挨拶、佐渡市地域振興課係長、笠孝貴弘氏の趣旨説明に続き、岡野勉副学部長による基調講演があり、新潟大学教育学部の佐渡実習を含む現場との協力体制などが報告された。続いて学生による活動報告があり、その後は城腰地区の方々や子どもたちによる花笠踊りの実演、座談会があり、発表会および授業の全日程は無事終了した。



2.5 研究教育実習

—教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、(旧)教育実践総合センター(平成22年度より、教員養成フレンドシップ事業推進室)に教育実習研究会(「研究教育実習」研究グループ)を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1)多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2)附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「教育実践カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における重要な構成要素として位置付けられている。

平成28年度においては、家庭科、数学科、理科、音楽科、美術科、学校教育学の各研究室において取り組みが進められた。その概要を下記に示す。

また、平成28年度においては、12月9日に、学習会「『研究教育実習』の現状と課題」が開催され、数学科と美術科の実践事例が、実践者から報告された。

なお、今年度の詳しい取り組みや学習・講演会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開(13)』(2017年3月)に記した。

学部担当教員 (所属、専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年、時期、時数、授業者等)
高木 幸子 (大学院教育学研究科 教育実践開発専攻・家庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、4人)	卒業研究において、小・中学校家庭科の内容及び方法の検討を行い、その一部を実証的に検討した。題材名は「日常生活において防災意識を高める家庭科授業内容の検討」、「災害後に活かせる知識を身に付けるための家庭科授業の検討」、「小学校家庭科における危機管理意識をたかめる授業内容の検討」「小学校家庭科における共助の大切さを学ぶ防災教育の検討」であった。	新潟市立中野小屋中学校2年1組、11月、6時間／新潟市立味方小学校6年1組、11月、6時間
垣水 修 (自然情報講座・幾何学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、4人)	卒業研究において「算数を活用した防災教育」をテーマに研究をおこなった。アクティブラーニングの考え方を取り入れ、算数的活動を通して問題解決能力を育むための、防災教育を題材とする教材開発をおこなった。それを基にした授業実践を附属新潟小学校においておこない、様々な視点から実践授業の分析をおこなった。	附属新潟小学校にて、第6学年の1クラスを対象に、11月、2時間の授業をおこなった。また、事前に2日間のクラス参観と児童との交流をおこなった。
土佐 幸子 興治 文子 (自然情報講座・理科教育学)	該当なし※ (2年次5人、3年次6人、4年次5人、教育学研究科の大学院生5人)	中学校理科の授業実践力向上を目的とする。参加者全員で1カ月以上かけて授業内容の検討、教材開発、模擬授業などを通して、ICT活用と協働型学習も含めた発展的内容の授業実践を行った。準備期間には、実習校を事前訪問し、教員と打ち合わせも行った。 実践後には実習校教員と協議会を行い、今後の改善策を検討した。	燕中等教育学校、3学年、5月～2月の土曜講座4日、各80分×2学級。 ※2010年度より理数系教員養成拠点構築事業の一部として燕中等教育学校と連携を開始した。事業は2011年度で終了。高大連携事業として継続。

<p>柳沼 宏寿 (芸術環境講座・美術科教育)</p>	<p>該当なし (4年次、2人。3年次、3人)</p>	<p>4年次に、小学校の現場からの要請で映像作品制作のワークショップを行った。上山小学校ではクラブ活動における映画づくりを新潟・市民映画館シネ・ウインドの井上経久氏とともに関わった。附属小学校では、PTA行事としての機会設定であり、親子でグループを編成して取り組んだ。</p>	<p>新潟市立上山小学生、参加者(小学5・6年生16名)、8時間。新潟大学教育学部附属新潟小学校(小学1・2年生、13名)2時間。</p>
<p>佐藤 哲夫 (芸術環境講座・美術科教育)</p>	<p>該当なし (大学院1年次、1人。随時2名の学生が補助で参加)</p>	<p>「アフタースクール(美術)」の活動では、主は自由絵で自己の興味のある題材を中心に制作活動を行ったが、今年度は、昨年度に言及された活動の目的である「社会的な拡がりの形成」を校外での展覧会の活動などで実践した。</p>	<p>新潟大学教育学部附属特別支援学校、中学部・高等部、卒業生計10名、4月～2017年2月、計18回。 ※附属特別支援学校「アフタースクール」事業として実施。</p>
<p>森下 修次 (芸術環境講座・音楽科教育)</p>	<p>「卒業研究」 (4年次2人、その他研究室所属の学生全員9名が補助として参加)</p>	<p>附属特別支援学校の「アフタースクール」での器楽演奏、「すなやま祭」での木琴・鉄琴(オルフ楽器)の発表を目標に、半年間、放課後に継続的に稽古を行った。子どもたちは、12月及び1月の発表を堂々行うことができた。駒林特別支援学校高等部より音楽の授業における合奏活動のための編曲等の依頼があった。個々の生徒の能力に応じた編曲等の提供や授業支援、援助を行うことができた。</p>	<p>新潟大学教育学部附属特別支援学校、中学部・高等部、5月～2017年2月、計15回。 ※附属特別支援学校「アフタースクール」事業として実施。 駒林特別支援学校、高等部、11月～2017年3月、計7回</p>

2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業及び関連事業

— 学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後14年目にあたる平成28年度において、学校からの派遣要請総数は123校、237人であった。派遣されたのは、教育学部3・4年次生のほか、大学院教育学研究科、現代社会文化研究科に在籍する学生・大学院生、総計140名である。今年度の派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（57校、99名）、中学校（22校、34名）、幼稚園（3園、5名）、特別支援学校（1校、2名）総計83校である。学校数、派遣人数については、平成27年度（86校、144名）から、派遣校数は3校、派遣者数が4名、若干減少した。なお、平成18年度から新潟青陵大学、平成26年度から新潟県立大学がこの事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する要望が寄せられている。

大学内においては、9月に中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生105名、新潟青陵大学学生6名、派遣校教員24名、大学教員4名、新潟市教育委員会担当者1名、総計140名が参加）。12月には、「平成28年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、新潟大学学生・院生106名、新潟青陵大学学生11名、派遣校教員25名、大学教員5名、新潟市教育委員会1名、総計148名）。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成28年度においては、32名の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第14年次）』を作成した。

関連事業として、新潟市教育委員会地域教育推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校9校に対して、23名の学生を派遣した。また、三条市教育委員会、燕市教育委員会と連携し、三条市立学校には4校（小学校2校、中学校2校）に4名、燕市立学校には7校（小学校4校、中学校3校）にのべ14名の学生をそれぞれ派遣した。



「学習支援ボランティア」活動風景（授業の指導補助）



公開シンポジウム（全体会風景）

2.7 教育実習

1. 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次の入門教育実習、2年次の観察・参加実習、3年次の教育実習、4年次の副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるため、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

2. 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

(1) 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施している。

(2) 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っており、附属学校において9月に1週間実施している。実習後には、附属学校の教員等を講師として事後指導を兼ねてのキャリアガイダンスを実施した。

(3) 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における実習の機会を提供している。

(4) 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一堂に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

2.8 介護等体験

1. 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年法律第90号）が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程所属の学生のうち特別支援教育専修を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校教員免許状の取得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

2. ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

○ 事前指導

月 日 平成28年4月8日（金）

対 象 平成28年度に介護等体験を希望する者（主として2年生）

（1）開会

（2）介護等体験の実施に当たって

教育学部介護等体験実施委員会委員長 足立 幸子 准教授

（3）介護等体験受入施設、学校における事前指導

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会会長 宮崎 則男 氏

「特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 今井 聡己 氏

（4）介護等体験に係る諸連絡

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

○ ガイダンス

月 日 平成28年11月28日（月）

対 象 平成29年度に介護等体験を希望する者（主として1年生）

（1）介護等体験実施の概要について

（2）介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

3. 実習状況

平成28年度は、学校教員養成課程205名、その他の課程62名、大学院1名の計268名が表1及び表2のとおり実習を行った。

4. 効果と今後の課題

社会福祉施設や特別支援学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等により延べ8名の学生が実習の取消を行い、また、学生の確認・準備不足による期間変更が多数あるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

【表 1】平成 28 年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	57	196	
長岡市	14	19	
三条市	3	3	
柏崎市	4	6	
新発田市	5	5	
加茂市	1	3	
十日町市	2	2	
見附市	3	3	
燕市	4	5	
糸魚川市	1	1	
五泉市	2	2	
上越市	6	7	
佐渡市	5	8	
魚沼市	1	1	
南魚沼市	2	3	
阿賀町	1	1	
田上町	1	1	
津南町	1	1	
湯沢町	1	1	
合 計	114	268	

【表 2】平成 28 年度特別支援学校実習一覧

	回数	実施期間	人 数
附属特別支援学校	1	5月12日 ～ 5月13日	22
	2	5月18日 ～ 5月19日	27
	3	5月23日 ～ 5月24日	27
	4	6月22日 ～ 6月23日	27
	5	7月12日 ～ 7月13日	27
	6	9月13日 ～ 9月14日	27
	7	9月20日 ～ 9月21日	19
	8	10月4日 ～ 10月5日	28
	9	10月12日 ～ 10月13日	29
	10	1月25日 ～ 1月26日	30
合 計			263

※ 1名が昨年度までに特別支援学校における介護等体験実施済

2.9 学校インターンシップ ― 大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成17年度より「学校インターンシップ」を実施している。①実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に②教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して③専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成19年度までは「教育実践総合研究」（2単位）の一環として位置付けられていたが、平成20年度に行われたカリキュラム改革により「学校インターンシップ」（教育実践共通科目、2単位）として独立している。

平成28年度においては3名の大学院生が活動を実施した。その概要は以下の通りである。

No.	所属	実施校	目的、活動内容、形態	時期
1	臨床心理学	新潟市立明鏡高等学校	①場面緘黙（選択性緘黙） ②高等学校における自立活動の授業 高等学校の通級指導教室における自立活動の教育について学び、場面緘黙の生徒と担当の先生が行う授業内における活動を支援する。	11月 ～3月
2	特別支援教育	新潟大学教育学部附属特別支援学校	小学生を対象とした通級指導の実際を観察し、必要に応じて活動補助を行ったりした。10月からは対象児童に対する学習支援活動の一部を担当した。	6月 ～3月
3	保健体育	三条市立井栗小学校、新潟大学教育学部附属新潟小学校	勤務校三条市立井栗小学校4年生児童を対象に壁逆上がりの段階的な指導内容を考え、実際に指導。動きの上達と体力の向上、形成的授業評価について明らかにし、逆上がり指導に関する基礎的知見を得ることを目的とした。	6月

2017年2月8日に3名の受講生により組織された実行委員会の計画、運営により「学校インターンシップ報告会」が開催された。当日は、松井委員長挨拶に続き、3名の参加学生の活動報告および教員による質疑応答が行われ、終わりに垣水先生と鈴木（愛）先生の挨拶があった。

なお、平成28年度の活動内容と成果について、次の報告書を発行した。

- ・新潟大学大学院教育学研究科学校インターンシップ委員会編『大学院教育における実践的カリキュラムの開発（第12年次）－平成28年度「学校インターンシップ」実施報告書』、2017年3月

2.10 インターンシップ

・企業等インターンシップ

【学習社会ネットワーク課程】

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

1. 平成28年度インターンシップの概要

・実施時期及び期間

平成28年8月～9月（夏期休業期間）・10月～11月（教育実習期間）、あるいは7月～12月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）。

・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。社会教育主事資格の演習科目。担当教員：雲尾）単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：中【1】、石山【3】、中央【2】、鳥屋野【2】、東【1】、関屋【2】、曾野木【1】、白根【1】、坂井輪【2】、西【2】、小針青山【1】

新潟市図書館：坂井輪【5】（公民館実習と兼ねる2名含む）

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【2】

2. 報告書

『平成28年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成29年2月9日）100部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。また、後年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布してインターンシップへの志向性を高め、実際に行う際の参考にさせています。

【健康スポーツ科学課程】

平成28年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習

本課程においては、平成12年より3年次生を対象に課程共通必修科目として「ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習」の科目名でインターンシップを実施している。

ヘルスプロモーションコースにおいては、主に健康増進関連機関において実態観察と事業運営、健康づくり関連の運動指導等の実務に携わり、スポーツ科学コースにおいては、主に体育・スポーツ振興関連諸機関、施設において、事業運営実務、事務、実技指導補助等に業務経験を行う実習を行った。

今年度の実習先は15か所であった。実習先は下記一覧表のとおりである。

実習に赴く前に6回の事前指導と、特別講義を行った。特別講義は本課程平成23年度卒業生で医療法人社団光仁会木島病院健康増進施設スポーツリハビリきじま勤務の健康運動指導士である遠藤美穂氏を講師に招き、「やりたい仕事に就くために」という演題で平成28年7月21日（木）に実施した。

平成28年10月20日(木)には実習先の担当者をお招きしてヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習報告会を開催。各実習先での実習の様子、成果を報告した。

実習の様子や成果をまとめた平成28年度実習報告書を作成した（平成29年3月）。

平成28年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習 実習先一覧

	実習施設	人数	実習期日
1	新潟市保健所	4	9/5（月）～16（金）
2	新潟県体育協会	2	9/6（火）～19（月）
3	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター	2	9/6（火）～19（月）
4	新潟県障害者交流センター	1	9/9（金）～22（木）
5	新潟市スポーツ振興課	2	8/29（月）～9/9（金）
6	鳥屋野総合体育館	2	9/6（火）～19（月）
7	東総合スポーツセンター	2	9/6（火）～19（月）
8	西総合スポーツセンター	2	9/6（火）～19（月）
9	下山スポーツセンター	2	9/6（火）～19（月）
10	亀田総合体育館	2	9/6（火）～19（月）
11	新潟市体育協会	2	9/6（火）～19（月）
12	ビジョンよしだ	2	8/26（金）～9/8（木）
13	燕市体育センター	2	8/30（火）～9/12（月）
14	メディカルフィットネス クオーレ	1	9/5（月）～17（土）
15	かえつメディカルフィットネス ウォーム	2	9/5（月）～17（土）

【芸術環境創造課程（音楽表現コース）】

音楽表現コースでは、現在5つの企業や団体が学生のインターンシップを受け入れている。それらは、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall、新潟市民芸術文化会館「りゅーとびあ」、セイジ・オザワ松本フェスティバル、ヤマハミュージックリテイリング新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所、日本の代表的な音楽祭事務局やプロ・オーケストラ等の協力により、音楽マネジメントの実際、交響楽団の運営、国際音楽祭の運営、音楽教室の運営や楽譜販売業務など、音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。

2016年度のインターンシップには9名が参加し、以下のような職業体験実習がなされた。詳細は『平成28年度 新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ報告書～大学を現場へ～』第16号を参照。

・公益財団法人 東京交響楽団事務局：9月（1名）

事務所（ミュゼ川崎）見学、創立記念演奏会「ファウストの劫罰」（サントリーホール）リハーサル見学や運営業務、フレッシュ名曲コンサート（ミュゼ川崎）のステージセッティング、楽器搬入業務等。

・Hakuju Hall：8月（1名）

リクライニング・コンサート、並びにギター・フェスタ2016等でのケータリング業務、受付業務、その他の運営業務。

・セイジ・オザワ松本フェスティバル：8月（1名）

国際音楽祭「セイジ・オザワ松本フェスティバル」での運営業務。

・新潟市民文化会館「りゅーとびあ」：8月（3名）

全国ジュニアオーケストラ・フェスティバルにおける運営業務。

・ヤマハミュージックリテイリング新潟店：10月（3名）

楽譜、楽器等の販売業務や音楽教室運営の見学、補佐など。

2.11 各課程の特色ある教育活動

【学校教員養成課程（国語教育）】

特色ある活動として、年に2回の学会を開催し、機関誌『新大国語』を刊行している。詳細は下記の通り。

1. 新潟大学教育学部国語国文学会

(1) 新潟大学教育学部国語国文学会 平成28年度夏期研究会

日時：平成28年7月30日（土）14：00～17：00

場所：新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容：シンポジウム「国語教師のライフヒストリー — 管理職経験者の歩みと日常 —」

シンポジスト 中原 広司（阿賀町教育委員会管理指導主事）

シンポジスト 南 昌弘（新潟市立内野中学校教頭）

シンポジスト 山本 寛（新潟県立教育センター指導主事）

コーディネーター 島 和宏（新潟市立東新潟中学校主幹教諭）

(2) 新潟大学教育学部国語国文学会 平成28年度研究大会

日時：平成29年2月4日（土）14：00～17：30

場所：新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容：

① 研究発表

「日中再生説話比較研究 — 人・物と接触する魂について —」

新潟大学現代社会文化研究科博士後期課程学生 劉 成龍

「和化漢文の特質からみた「書記」について」 新潟大学人文学部 磯貝 淳一

② 講演

「曾良と芭蕉の越後 — 高田での俳諧を中心に —」

新潟大学教育学部 山本 啓介

③ 総 会

(3) 機関誌『新大国語』の編集・刊行

① 『新大国語』第38号（平成28年3月）を刊行。

② 『新大国語』第39号（平成29年3月）を編集。

【学校教員養成課程（理科教育）】

1. 特色ある教員養成

(1) 新潟市立総合教育センターとの連携

市民向け講座「天文教室」の補助を理科の学生を中心に行った。

(2) 新潟県立燕中等教育学校での土曜講座実施

実施校において「前期課程高大連携講座（理科実験講座）」として位置づけられている土曜講座において、実験や班ごとの話し合い、ICT活用等を豊富にとり入れた理科授業を学生が行った。中学3年生を対象に、4回の授業（80分×2クラス）を行った。

- ・2016年5月21日（土）生物（見ることの不思議）
- ・2016年9月24日（土）物理（慣性モーメント）
- ・2016年12月3日（土）地学（雪のでき方）
- ・2017年2月25日（土）化学（セッケンのはたらき）



図 物理の回で中学生を教えている学生の様子

(3) 理科支援員等配置事業における小学校理科の支援

2013年度から文部科学省が実施している小学校、中学校の理科の実験・観察を支援する補助員（PASEO）として、計2名の理科の学生が新潟市の小学校で活動した。

(4) 化学実験公開講座の開催（2016年8月8日（月））

高校生のための化学実験体験公開講座「夢・化学-21 化学への招待 一日体験化学教室」で、教育学部の化学科教員2名および技官1名、4年次学生4名が「発泡性入浴剤（バブ）を作ってみよう」、「pHメーターを使ってみよう」の2テーマ（全14テーマ）の講座を企画・実施した。この体験実験に参加した高校生は14名であった。

(5) 群馬県立太田女子高校地学部活動の指導

群馬県立太田女子高校地学部の研究活動（釧路湿原の沖積層に含まれる微化石の解析による古環境変動の復元）の指導をした。資・試料の提供、各種科学賞に応募する研究内容についての助言を行い、生徒たちの科学的探究を支援した。

【学校教員養成課程（保健体育）及び健康スポーツ科学課程】

アジア大学スポーツ交流プロジェクト ～Sports for P.E.A.C.E.～

本プロジェクトの目的はグローバル化社会に対応した人材育成を行うという発想の元、平成22年度新潟大学GPに採択されて始まりました。国際交流において、学術的な交流に加え、ともにスポーツの場を共有することは言語・文化の違いを超えて相互理解を深めるための重要なツールのひとつとなります。本プロジェクトの目的は国別の体育・スポーツ指導方法の比較検討、学術交流等を掲げるとともに、学士力の向上を第一に上げ、「Sports for P.E.A.C.E.」というサブタイトルは学生が主体となって企画を運営するための手順を示しており、その意味は以下の通りです。

P. Plan 学生による国際交流の企画

E. Encounter 他国の学生や文化との遭遇

A. Assist 教員による援助・指導

C. Carry out 企画の実行

E. Evaluation 実行した結果の評価

本プロジェクトの交流先は韓国の漢陽大学と中国の哈爾濱商業大学です。第1回は新潟大学において、その後中国、韓国の順番で行われ、今年は新潟大学での3回目の開催となり、本年度で通算7回を数えます。

本年度の交流日程：平成28年11月22日（火）～11月27日（日）6日間

11月22日（火）漢陽大学来日（参加者：教員3名、学生7名）

11月23日（水）哈爾濱商業大学来日（参加者：教員3名、学生4名）

スケジュール

11月23日（水） 駅南キャンパス「ときめいと」：本プロジェクトに関してコンセンサスを得る会議。

その後ホテルサンルートにおいてウエルカムパーティー（各校代表の挨拶、記念品交換など）。哈爾濱商業大学の教員・学生によるダンスが披露された。

11月24日（木） 午前：「学術交流」各国の学生による研究や活動の紹介

本学からは現代社会文化研究科修士2年の亀山就平君が体操競技の研究・実験手法について紹介、中韓両大学の学生が各大学の組織や活動についてのプレゼンテーション。午後は漢陽大学のPark Bun Young教授によるゴルフに関する特別講義（Park教授は大学でゴルフ専攻の学生を指導、そのゴルフ部のほとんどがプロ選手であるという、日本にはないシステムを紹介）。

「スポーツ交流」：第2体育館においてフットサルで交流。

「文化交流」：温泉入浴体験（西蒲区の「じょんのび館」日本における入浴マナー体験）。

11月25日（金） 午前：哈爾濱商業大学の張環宇先生による卓球の特別講義（張先生は中国の元プロ卓球選手、本学大学院現代社会文化研究科において博士号を取得）。

午後：体操競技体験（器械を使った体操の指導法や師範、また体操競技の研究を行うための実験の方法について実演）。

夕方、フェアウェルパーティー（来年度は哈爾濱商業大学で開催を確認）。

フライトの関係で韓国、中国の来日、帰国が1日ずれましたが、スケジュールの合間には、本学学生の案内で新潟市内観光をするなど充実した時間を過ごせるよう学生が企画・実行し、本プロジェクトの目的を果たすことが出来ました。

最後になりますが、本プロジェクト開始3年間は新潟大学GPの予算で行うことが出来ましたが、その後は予算的な裏付けがないまま、保健体育・スポーツ科学講座教員の研究費から捻出する形で実施してきました。本年度はコアステーション人文社会・教育科学系付置環東アジア研究センター関係の先生方からもご協力頂き、無事実施することが出来ました。大変実りのある企画だと自負しておりますので今後いずれからかの予算措置を期待し、ご協力頂いた先生方に感謝申し上げます。



2016「新大なんでもスポーツプロジェクト」

11年目を迎えた「新大なんでもスポーツプロジェクト」、今年度も保健体育・スポーツ科学講座の大学院生、学生、教員が5つのプロジェクト種目を企画し、地域の人々とスポーツ活動等を通して交流するとともに、指導者資質を高める大変意義のある機会となった。

以下の表は今回の5つのプロジェクトの名称、参加者数を示したものである。合計280名の市民と交流を果たした。

コース名称	募集人数	回数	開催日時	参加者人数
A 安全・安心のためのスポーツ環境づくり —スポーツ指導におけるリスクマネジメント—	約30名	2	7/1(金) 7/15(金)	46 45
B スイムクリニック	約30名	2	10/1(土) 10/8(土)	31 28
C 小・中学生のための卓球教室	60名	4	9/10(土) 9/11(日) 9/17(土) 9/19(月・祝)	100
D 集まれ！親子でソフトボール広場	約20名	3	都合により中止	
E スキースクール（冬季学校体育研究会と共催）	約30名	1	平成29年 1/7(土) ～1/9(月・祝)	30

計280名



【学校教員養成課程（音楽教育）及び芸術環境創造課程（音楽表現コース）】

地域と大学連携プロジェクト

新潟市西区役所との連携により、大学と地域連携プロジェクト「西区から世界へ、世界から西区へ、～いま、音楽で、つながる～」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1、2」並びに「卒業研究」）の中で、マネジメント実習も兼ねて行った。このプロジェクトは、新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので、2016年度は16名の学生スタッフの発案・運営による、学校ワークショップも含めた4企画5公演が行われた。これらは、西区と世界を繋げるというコンセプトの下に全企画を関連付け、学生たちの手によって運営されて、地域の方々延べ1300人にご来場いただいた。今年度の企画は、それぞれの専門分野で活躍する卒業生をコーディネーターとして依頼し、実践的な指導を受けながら進められた。Eアーツカンパニー代表の長谷川修子氏がコーディネーターを務めた6月公演では、パリ国際音楽祭を初め世界的に活躍する「地中海トリオ」（初来日）を招聘し、地域連携プロジェクトでは初めての民俗音楽による演奏会が行われ、NHK「イブニングニュース」でも特集された。

また、アメリカ音楽の研究者で音楽評論も手掛けるフェリス女学院大学准教授の谷口昭弘氏をコーディネーターとする8月公演では、音楽科の教員を含め新潟市中心に広く演奏活動を続けている地元のアーティストたちが現代のアメリカ音楽プログラムで共演し、聴衆の反応の良さが95.9%のアンケート回収率（来場者295人／300満席）に反映された。

同様に10月公演では、西区出身で世界的な音楽コンクールで高い評価を得ている若手ハーピストの山宮り子・ハープリサイタルが好評のうちに行われた。詳細は、横坂研究室ホームページ（<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>）に掲載の全体広報誌や各企画のチラシ、プログラム等を参照のこと。

佐渡豊岡地区祭りの参加

今回で8年目になる佐渡市豊岡地区祭り（鬼太鼓）に森下研究室所属学生全員が参加した。3月27日に佐渡に入り、民家および地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を伝承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。本年も昨年同様第1日曜日の4月3日に祭りが行われた。また、例年、学生は法被を着けて舞うだけだが、今年も学生1名が面、装束を着けて鬼を舞い、午後からは鬼2匹とも学生が舞うという重責を任された。天候は祭りが終わるまで何とか持ってくれた。全員が元気で無事祭りを務めた。祭りの様子は2016年4月4日放送のテレビ新潟（TeNY）「夕方ワイド新潟一番」のニュースで報じられた。



新潟市立内野小学校訪問演奏

昨年度まで村上市立西神納小学校に赴いていたが、本年度から大学に近い新潟市立内野小学校に行くことになった。今年度のテーマは「ちんどん屋、日本列島を巡るの巻」で、日本各地の音楽に触れ、地域の伝統音楽のよさを感じることを目標とするものであった。題材は「わらべ唄」、「アイヌ音楽」、秋田の「かけうた」、琉球の「エイサー」、地元内野の「盆踊り」、「樽砧」であった。企画を担当した3年生は、富山県で催された全日本チンドンコンクールの取材、作曲専攻学生による「あんたとこどこさ」の合唱編曲、北海道へ出向いてのアイヌ音楽の研修、秋田県横手市金沢八幡宮奉納伝統掛唄行事の出場、沖縄出身者による琉球音楽の研修、地元内野の盆踊りの参加、永島鼓山氏の樽砧の研修など、子どもたちに教えるために手間、時間と費用をかけて本物の音楽を追求した。これらの題材は休日や夏休みなど、時間をかけて教材化と模範演技の稽古が行われた。



全校向けの訪問演奏は9月21日（水）の朝の時間、内野小学校で継続的に行われている「ミュージック・タイム」の時間に催された。また、昨年まで全校で実施していた授業は、大規模校のため3年生に絞って、ミュージックタイムの前日までに事前に行われた。

なお、内野の盆踊りの稽古とミュージックタイム本番の様子については、11月1日に放映されたテレビ新潟(Teny)「夕方ワイド新潟一番」の「住民十色」のコーナーで取り上げられた。

附属特別支援学校アフタースクール

平成27年度より、附属特別支援学校中高等部の課外授業としてアフタースクールが行われた。今年度はオルフの木琴、鉄琴を使用した合奏を指導した。それらの学習の成果は12月3日の授業研究会および1月28日のすなやま祭で披露され、好評を博した。



【学校教員養成課程（美術教育）及び芸術環境創造課程（造形表現コース）】

1. 日本海夕日コンサート舞台演出

日本海夕日コンサートは、新潟市民のボランティアが運営するキャンペーンである。芸術環境講座では毎年、有志の学生を集め実行委員会と関わり取り組んでいる。この取り組みは、芸術表現を活かした社会体験のインターンシップとして位置づけている。指導は柳沼教授、橋本准教授が担当。

会期：2016年8月6日(土)

会場：新潟市青山海岸

主催：日本海夕日キャンペーン実行委員会

後援：新潟市



2. 地域連携アートプロジェクト「うちの開花宣言」

学生を主とした地域貢献活動の一環として、西区地域課と連携してこれまで様々なアートプロジェクトを実践している。今年度は、内野町に新しく複合コミュニティ施設として落成する「うちのまちづくりセンター」の落成を記念し、そのオープニングイベントとしてアートプロジェクトを実践した。

また、これまでの特色として新潟市西区内野町を舞台としたアートによる地域コミュニティ活性化事業「うちのDEアート」の存在がある。今年はその節目の年に当たるため、主な企画として「うちのDEアート15年の軌跡」と銘打ち、これまでのアートプロジェクトのパネル展示、シンポジウムなどを開催した。

その他に、中央区榎谷小路商店街との連携事業「アートフラッグプロジェクト」の実践がある。

教員と有志の学生で実行委員会を組織し、街の組織委員との協議を重ねプログラムを構築する活動に取り組んでいる。この講座の狙いは、芸術表現と社会との接点から造り上げられる新たな表現を生み出すことを目的としている。その活動を通し、様々な人との関わりから生まれるコミュニケーション能力の学習、企画を遂行してゆくマネジメント能力が養われ、ここで学んだ力は、教員の素養として必要な自信ある行動力を養い、他業者との共同作業の経験が実社会で必要なスキルとして活かされている。



【芸術環境創造課程（書表現コース）】

1. 主な行事を通して

書表現コースは全国でも珍しい、書文化を制作と理論の二面から細分化して研究出来る学び舎である。まず第一の特色として、大作発表を基盤とする芸術活動がある。それを学生達が自治組織を立ち上げ主体的に運営するのが、受け継がれてきた伝統である。主な行事を次に掲げる。

- ①学年展（2年進級時に開催 会期5月 西新潟市民会館）
- ②麒麟会書展（西日本出身者有志による 会期8月 新潟市芸術文化会館りゅーとびあ）
- ③芙蓉会書展（東日本出身者有志による 会期8月 新潟県民会館）
- ④錬成会（学外講師・森大衛先生を招聘し、越後湯沢にて開催 9月中3泊4日）
- ⑤新大祭におけるパフォーマンス書道（会期10月 教育学部前）
- ⑥書道科展（院生から学部生まで70人ほどが出品 会期12月 新潟県民会館）
- ⑦卒業制作展（16名が出品 会期平成29年2月 新潟県民会館）

作品の大きさだが、⑥は一人平均壘4枚分。⑦に至っては一人平均14枚、大きいものでは20枚ほどにいたる。これを手本なしで仕上げる。そのために入学時から制作と理論表裏一体のカリキュラムを学び、卒業後一人になったときに備えての学習姿勢を進めている。独自性を各自の意志で追及していることが、他大学と比べて本学の最も大きな特色となっている。

このような芸術活動を目指し、志願者が文字通り北は北海道、西は九州といった全国各地から集まって来て、28年度卒業生を例にとると16人中、新潟出身者は一人だけという位ユニークな多国籍の集まりである。

2. 教育実践

文字の成り立ちや文字に関する一般教養を主とする講義と、学生によるパフォーマンス書道の出演依頼が増えている。今年度も、

- 教育学部附属長岡小学校「文字文化あれこれ」（全校児童対象）
- 新潟市立木山小学校創立140周年記念行事（全校児童対象）
- 新潟市立五十嵐小学校書初め指導（3年生以上対象）

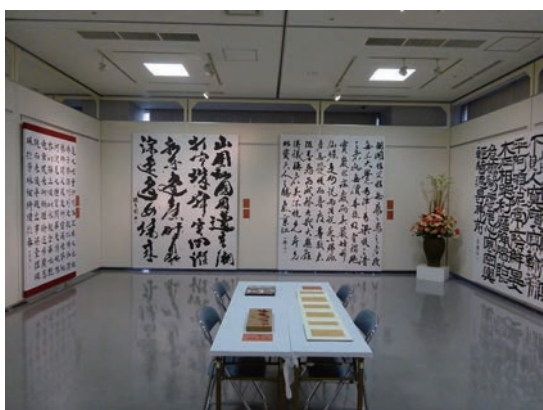
等に出講し、他教科では学び得ない体験があったと喜ばれた。

3. 就職・進路

卒業生全員が教員免許を取得し、3人が高校書道講師志望。他、公務員および一般企業に就職。

4. 明日につながる活動

残念ながらゼロ免課程募集停止により、29年度入学生からの専門性を追求する姿勢は様変わりせざるを得ない。ただし、教職を目指すことを念頭においた上で、書の本格的な専門性の追求が出来る環境を残す道を模索している。そのためには、ここに掲げた学生主催行事を中心とする、自主的な課外活動の存続をはかりたい。在校生もこの点を意識し、28年度の活動はこれまでの集大成の一環として位置付け、準備につとめてきた。その内容は来場された多くの書家・一般書道愛好家そして卒業生に好評を博し、地域の芸術活動の拠点として認められ、活動の継続が求められている。



2.12 中・高校生等の大学見学

本学部では入試広報の一環として、高等学校からの見学受入れを積極的に行い、本学部の特色や魅力を発信している。

担当教員はカリキュラムや就職状況等を説明した後、専門性を生かした模擬授業を行い、進学希望者への学部理解に努めている。

No	実施日	学校名	参加者	担当教員	備考
1	4月15日	日本文理高等学校	1年生10名	麓 慎一（広報委員長）	
2	6月23日	新潟南高等学校	1年生50名	麓 慎一（広報委員長）	総合学習の一環
3	7月5日	巻高等学校PTA	保護者44名	柴田 透 （広報委員・副学部長）	
4	7月7日	黒磯高等学校	2年生35名	清水 文博	
5	7月14日	小千谷高等学校	1年生23名	長澤 正樹	
6	7月21日	新潟南高等学校	1年生70名	岡田 祥平（広報委員）	ポスター展示による説明
7	7月26日	新井高等学校	1年生29名	麓 慎一（広報委員長）	
8	7月29日	巻高等学校	2年生40名	興治 文子	
9	9月7日	燕中等教育学校PTA	保護者9名	麓 慎一（広報委員長）	
10	9月23日	長野高等学校	1年生24名	小泉 明子	
11	10月3日	開志国際高等学校	2年生56名	鎌田 正喜	
12	10月13日	長岡高等学校	2年生22名	松澤 伸二	
13	10月14日	大田原女子高等学校PTA	保護者40名	柴田 透 （広報委員・副学部長）	
14	10月17日	北越高等学校	1年生64名	鈴木 恵	
15	10月26日	福島東高等学校	1年生21名	加藤 茂夫	

【附属学校等からの見学】

No	実施日	学校名	対象者	担当教員
1	6月13日	附属長岡小学校	小学校5年生60名 及び保護者60名	小林 日出至郎（附属長岡小学校長）
				松井 賢二（広報委員）
				岡村 浩（模擬授業）
2	9月27日	附属長岡中学校	中学校1年生120名	土佐 幸子（附属長岡中学校長）
				岡田 祥平（広報委員）

2.13 出前講義

新潟大学では高校生の皆さんに大学を知ってもらう機会として、本学教員が高等学校へ出向いて講義を行う「出前講義」を実施している。

本学部では下表のとおり出前講義に出向き、担当教員は専門性を生かした講義を行った。

No	実施日	学校名	参加者	講義テーマ	担当教員
1	6月10日	葵高等学校	2年生30名	密室殺人と情報理論	垣水 修
2	7月6日	栃木高等学校	2年生40名	密室殺人と情報理論	垣水 修
3	7月6日	栃木高等学校	2年生40名	「日本画」って知ってる？	永吉 秀司
4	8月24日	直江津中等教育学校	4, 5年生30名	数学で考える環境問題	垣水 修
5	9月14日	湯沢高等学校	1～3年生60名	意味・根拠を理解する学習を	岡野 勉
6	10月20日	大田原高等学校	1, 2年生40名	数学で考える環境問題	垣水 修
7	11月9日	新潟第一高等学校	2年生80名	ロシアの歴史	麓 慎一
8	12月2日	村上中等教育学校	1, 2年生40名	手書き文字を楽しもう	岡村 浩

3. 就職支援

3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、次のとおり「教職理解特別講座～教員採用検査に向けての対策と指導～」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの津野 敏江客員教授、田中 賢一特任教授、川端 弘実特任教授、林 克久特任教授である。

1. 目的

講座の受講を通して、教育現場の実際を知り、多様な教育課題の解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師としての在り方を学ぶ。また、教員採用検査に向けて、筆答検査の勉強の観点、模擬授業の在り方、個人・集団面接の在り方、等々の具体的な対策を学ぶ。

2. 実施内容

(1) 応用コース

対象者：学部4年生、大学院生、養護教諭特別別科生、新潟大学の卒業生

開講時間：5限（16：25～17：55）、場所：204教室

	開催日	講義内容
1	4月14日（木）	ガイダンス・小論文ファイリングの仕方 出願書類の書き方
2	4月21日（木）	出願書類の実際と評価演習 筆答検査問題対策
3	4月28日（木）	新潟県教育委員会・新潟市教育委員会から採用検査の説明
4	5月12日（木）	小論文のまとめ 面接総論
5	5月19日（木）	面接各論（個人・集団・場面指導・模擬授業）
6	5月26日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
7	6月23日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
8	6月30日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
9	7月7日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
10	7月14日（木）	二次検査対策Ⅰ
11	7月21日（木）	二次検査対策Ⅱ
12	7月28日（木）	二次検査対策Ⅲ 私立学校等希望者への指導助言
13	11月10日（木）	臨時教員採用希望者への指導助言
14	11月17日（木）	採用候補者への指導助言

(2) 基礎コース

対象者：学部3年生，大学院1年生，新潟大学の卒業生

開講時間：5限（16：25～17：55），場所：204教室

	開催日	講義内容
1	10月6日（木）	ガイダンス
2	10月13日（木）	教育関連法規と学習指導要領のポイント
3	10月20日（木）	学習指導上の課題とその解決に向けて
4	11月24日（木）	小論文の書き方とポイント
5	12月1日（木）	豊かな人間関係づくりの方策と取組
6	12月8日（木）	小論文の書き方と評価
7	12月15日（木）	小論文の書き方と演習
8	1月12日（木）	教育行政が期待する教師像
9	1月19日（木）	小論文の書き方と目指す教師像
10	1月26日（木）	本講座のまとめと次年度《応用コース》に向けて

3.2 教員採用試験対策支援プログラム

教員採用試験対策の充実・強化を図るため、教員採用試験対策支援プログラムを下記のとおり実施した。

1. 教員採用試験対策支援プログラム（H29.4採用者向け）

(1) 教員採用検査合格者（卒業生）の模擬授業見学

平成28年5月27日（金）、昨年度教員採用検査で合格を果たし、正規教員となった卒業生2人を招き、教員採用検査を想定した模擬授業を行った。参加者は59人。

実際の教員採用検査と同じ進捗で授業を実施した後、質疑応答を行った。参加者からは大きな刺激となった様子が見られた。

(2) 教採対策講義（特別支援教育）

平成28年5月25日（水）長澤教授による、教採対策講義「特別支援教育の現状と今後」が行われ、25人の参加があった。

(3) 理科実技試験対策

平成28年5月25日（水）、6月22日（水）、24日（金）、教員採用検査対策支援プログラムとして「理科実技試験対策」を行った。参加者は延べ9人。理科教員から、実技試験を想定した実験器具の操作方法等について具体的なアドバイスを受けた。

(4) 小論文指導

平成28年6月29日（水）、小久保教授指導のもと、「小論文指導」を行った。参加者は58人。参加者は論文を書くためのポイント等についてアドバイスを受けた。



(5) 模擬授業

平成28年7月4日（月）～6日（水）、7月15日（金）、19日（火）～20日（水）の6日間、実際の教員採用試験を想定した「模擬授業」を行った。参加者は延べ131人。柴田教授・大平准教授を中心に、多くの学部教員の協力を得て実施した。

授業実施者が、実際の教員採用試験を想定した模擬授業を実施し、参加者との質疑討論の後、教員等からアドバイスを受けた。



(6) 場面指導

平成28年8月2日（火）、「場面指導」対策講義を行った。参加者は60人。

全学教職支援センター田中特任教授、川端特任教授をはじめ、大平准教授が面接官役となり、学生代表者3人と実際の教員採用試験を想定した場面指導を行った。参加者は、二次試験の面接に向け意欲を高めた。



2. 教員採用試験対策支援プログラム（H30.4採用者向け）

(1) 教員採用試験の最新動向と対策（時事通信出版局ガイダンス）

平成28年12月16日（金），時事通信出版局から講師を招き，教員採用試験の最新動向と対策について講演を行った。参加者は101人。

今年度実施された教員採用試験の動向を踏まえた対策や過去問の分析，最新教育時事の傾向と対策について，講演をいただいた。



3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス

2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生を対象とした、本学部独自のキャリア支援ガイダンスを開催した。

2年次生向けキャリア支援ガイダンス（観察・参加実習事後指導）

平成28年9月12日（月）に、2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生向けに、(1) 観察参加実習を振り返って、(2) 3年次の教育実習での心構え、(3) 教員という職業についてを中心に、附属新潟小中学校、附属長岡小中学校の教員や学部教員を講師にガイダンスを行った。参加者は260人。

参加した学生は、観察・参加実習を振り返り、3年次に行う教育実習に向けて、また自身のキャリア形成について考える良い機会となった。



3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス

本学部独自の一般企業・公務員志望学生向けセミナーを下記のとおり開催した。

1. 公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー

平成28年11月29日（火），企業・公務員就職を希望する3年次生を対象に就職対策講座を開催した。参加者は30人。

講座では，内定者4人による具体的な就活体験談とパネルディスカッション，キャリアセンターキャリアコンサルタントによるアドバイスが行われた。

体験発表では，企業就職を果たした内定者2人から，就職する企業を志望した理由，具体的な活動の時期や内容について，公務員就職を果たした内定者2人から，試験勉強の方法，教員採用検査受験・一般企業就活との両立についての具体的な話があった。

続いて，株式会社マイナビから就職決定と活動の進め方のアドバイスがあった。

パネルディスカッションでは，「圧迫面接」や「オワハラ」などについて意見が交わされ，キャリアコンサルタントから，キャリアセンターの活動についての紹介，自己理解や業界研究・企業研究の必要性を中心とした今後の取り組みについてのアドバイスがあった。



3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

1. 「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」（「教職理解特別講座応用コース」第13回）

日時：平成28年11月10日（木）5限（16：25～17：55）

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時教員採用希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。また、全学教職支援センターの川端特任教授から、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、学務情報システムを利用して該当する学生に随時通知を行った。

2. 平成29年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」（登録者数49人）をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会、新潟県内の私立学校及び学生から希望のあった県外の11自治体の教育委員会に送付し採用を依頼した。

また、下記の県内教育委員会及び各教育事務所等、並びに宮城県、山形県、福島県、群馬県、埼玉県、石川県及び富山県教育委員会へは、全学教職支援センター教員が訪問し、採用を依頼するとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

記

訪問先	期日	担当教員
新潟県教育委員会	平成28年12月22日（木）	林特任教授 川端特任教授
新潟市教育委員会	平成29年1月6日（金）	田中特任教授
下越教育事務所	平成28年12月19日（月）	田中特任教授
中越教育事務所	平成28年12月21日（水）	津野客員教授
上越教育事務所	平成28年12月20日（火）	津野客員教授

3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス

教員採用試験対策として、本学部独自に教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

1. 教採合格ガイダンス（4年次生向け）

平成28年4月26日（火）、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項（願書）の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。参加者は173人。

ガイダンスは、(1) 三条市小学校で正規教員として勤務している卒業生による体験談の発表、(2) 大平准教授から、教員採用検査本番にあたっての心構えや諸注意、具体的なアドバイスおよび教員採用検査対策支援プログラムなど大学のサポートの説明、(3) 全学教職支援センター田中特任教授から、自己PRカード記入上の留意点の説明などが行われた。



2. 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

平成28年10月19日（水）、来年度の教員採用検査受験予定者を対象にガイダンスを開催した。参加者は90人。

ガイダンスでは、(1) 全学教職支援センター田中特任教授から「教職理解特別講座」の説明、(2) 昨年度教育学部卒業生で県内の小・中学校で活躍している先輩2人から教員を目指すにあたっての体験談発表、(3) 大平准教授から教員採用検査や教員という職業への心構えをはじめとした具体的なアドバイスをいただいた。



3.7 教育学部就職情報ホームページ

教育学部ホームページの就職情報ページには、教員や公務員、一般企業への就職を希望する学生向けに、教育学部卒業生の就職状況や就活の体験談などを掲載しています。

先輩方が感じた悩みや成功への秘話など、教育学部に特化した情報を発信します。

(教育学部就職情報ホームページURL：

http://www.ed.niigata-u.ac.jp/modules/job/index.php?content_id=1)

The screenshot shows the homepage of the Faculty of Education at Niigata University. The header includes the university logo, the name '教育学部' (Faculty of Education), and 'FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY'. A search bar and navigation links are present. The main content area is titled '就職情報' (Job Information) and is divided into several sections: '就職実績' (Job Performance) with links for graduates' status, industry career paths, and main job preferences; '就職にむけて' (Towards Job) with links for faculty hiring, public employees, and general companies; '就職体験記' (Job Experience) with links for years 2013 to 2010; '教員採用検査(面接)内容調査 (学内限定情報)' (Faculty Hiring Exam Interview Content Survey) with links for years 2019 to 2023; and '就職支援活動' (Job Support Activities) with links for faculty hiring and career understanding lectures. A sidebar on the left contains a 'メインメニュー' (Main Menu) with links to home, faculty, research, and other departmental pages. A right sidebar features '教職大学院' (Graduate School of Education) and '重要なお知らせ' (Important Notice) regarding a course change for the 2019 student recruitment. At the bottom right, there are banners for '東日本大震災への対応' (Response to Great East Japan Earthquake) and '塩野文庫' (Shiono Bunko).

3.8 教職サポートルーム

教員を志望する学生への支援充実を図るため、教育学部内に「教職サポートルーム」を設置している。

教職を目指す学生が自由に利用でき、指導書や教職関連冊子が閲覧できるほか、電子黒板などを使った模擬授業を行うスペースがあり、教採試験間際は利用度が多い。

また、教職指導担当教員が週2回常駐し、学生からの相談に対応する体制が整っていて、学生が気軽に相談できる環境となっている。



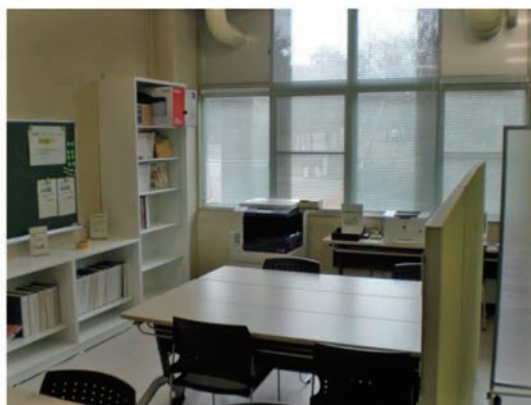
教職サポートルーム (101講義室)



模擬授業スペース・電子黒板ほか



指導書・参考文献・自習スペース



教職関連雑誌・情報検索用パソコン

4. 学部FD

- 第1回 日時：6月23日（木）14：40～16：10
場所：教育学部 204講義室
講師：佐藤 亮一
題目：ICT活用について
- 第2回 日時：7月14日（木）13：30～14：30
場所：教育学部 大会議室
講師：木村政伸
題目：来年度からのクォーター制導入に向けて
- 第3回 日時：9月8日（木）13：00～14：30
場所：教育学部 大会議室
講師：研究推進課・研究企画室
題目：平成29年度科学研究費助成事業公募に係る部局説明会
- 第4回 日時：9月9日（金）16：30～18：15
場所：中央図書館 ライブラリーホール
講師：東京学芸大学学務部教務企画係 周藤 正樹氏
題目：「教員免許事務に関する基礎的事項と体制作り」
- 第5回 日時：10月13日（木）13：00～14：10
場所：教育学部 大会議室
講師：下保敏和
題目：3つのポリシー公表に向けた検討について
講師：岡野勉
題目：理工農改組にかかる課程認定申請から学んだこと
- 第6回 日時：11月10日（木）13：30～14：30
場所：教育学部 大会議室
講師：教育・学生支援機構学生支援センター 准教授 布施直美先生
題目：ハラスメントの加害者にならないために
- 第7回 日時：1月12日（木）13：30～14：30
場所：教育学部 大会議室
講師：田中恒彦
題目：「ヒトを対象とする研究の倫理と当学における倫理審査の実際について」
- 第8回 日時：1月18日（水）15：00～17：00
場所：附属図書館 ライブラリーホール
講師：東京薬科大学 教授 田子 健氏
演題：「教職課程認定に向け大学・教員は何をなすべきか ― 教育職員免許法改定の論理 ―」

5. 地域貢献

5.1 12年研修

1. 平成28年度新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である教職12年経験者研修「教科指導研修」(以下「12年研修」と称する)は、平成28年度で13年目を迎えた。

(1) 日程

平成28年度の「12年研修」の活動日程は下表のとおりである。

日程	研修内容	場所等
6月30日	センター・学部の事前打合せ会	教育学部
8月1日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月10日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
8月23日	「教科指導研修」3日目	センター・学部
9月～12月	代表者授業研究会等	受講者の各学校
10月～12月	「研修のまとめ」	センター・学部

6月の事前打合せ会で、新潟市立総合教育センター(新潟市教育委員会を含む)指導主事と教育学部担当教員とが一堂に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導研修」は、3日間にわたって実施され、各受講者の授業

力の課題の検討、学習指導計画の検討、学習指導案の検討、模擬授業等に取り組んだ。これらを踏まえて、9月以降に、グループ毎の代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。また、10月から12月までの期間に、グループ毎に「研修のまとめ」を実施した。

(2) 受講者・指導者・グループ編制

教科名	受講者数		グループ数		指導主事数	学部教員数	
国語	5	(16)	1	(4)	1	1	(4)
社会	1	(3)	1	(1)	1	1	(1)
生活	1	(0)		(0)			(0)
算数・数学	19	(28)	5	(5)	7	5	(5)
理科	2	(4)	1	(1)	1	1	(2)
英語	8	(8)	2	(2)	2	2	(2)
音楽	4	(4)	1	(1)	1	1	(1)
図工・美術	1	(0)		(0)		1	(0)
技術	1	(0)	1	(0)	2	1	(0)
家庭	1	(1)		(1)		1	(1)
保健体育	11	(6)	2	(2)	2	4	(4)
道徳	2	(0)	1	(0)	1	1	(0)
特別活動	2	(0)		(0)		1	(0)
特別支援教育	3	(9)	1	(2)	1	2	(2)
合計	61	(79)	16	(19)	19	22	(22)

教科毎の受講者数、グループ数、指導者数等は、以下のとおりである。(括弧内は、昨年実績)

教科等に1班2～6名のグループを編制し、指導主事と学部教員がペアで参加する体制をとった。

保健体育のように、グループ数よりも多くの学部教員の参加・協力がみられる教科もあった。これらの教科では常時複数名が参加し、受講者の研修内容に応じて、指導・助言を行った。

受講者数は61名であり、少人数グループ編成と指導主事・学部教員のチーム・ティーチングが実現し、受講者一人一人の課題解決に向け

たきめ細かな指導が行き届くようになっている。

なお、平成28年度は、「道徳、特別活動」が新規で実施され、「社会、生活」、「図工・美術、技術、家庭」、「道徳、特別活動」は合同班で実施された。

2. 「12年研修」の新たな取組に向けて ～ 学部「養成」と現職「研修」の連携等 ～

6年前から新たな取組として、教育学部での「養成」と現職教員の「研修」との連携がある。代表者授業研究や全受講者の校内授業研究に、学部生や大学院生が参加し、共に授業について学ぶ機会が設けられ、また、教育学部4年次後期「教職実践演習」の受講生が、本授業研究に参加できるようになった。平成28年度は、学部・院生がこれらの授業研究に延べ142名参加した。

5.2 市民・教員を対象とした公開講座

新潟大学では、広く地域に生涯学習の機会を提供することを目的として、毎年公開講座を開設しています。教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、本学部の特色を生かした講座を開講し、受講者から好評を博しています。

平成28年度 公開講座一覧

No	講座名	日程	対象	講師名	受講者数
1	ウォーキング指導者のためのワークショップPart 2 ーウォーキングを契機とした 生活習慣病予防戦略ー	11月12日（土）	中高齢者の運動 指導に関わる指 導者	教授 篠田 邦彦 非常勤講師 篠田 浩子	30人

5.3 教育委員会との連携事業

○ 教育委員会との連携協定

・新潟県教育委員会との連携推進協議会

平成23年4月に締結した連携協定にもとづき、平成28年12月13日「平成28年度新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携推進協議会」を開催した。

新潟大学教育学部の現状、平成29年度教員採用状況及び平成30年度以降教員採用の見通し、学校現場が抱える教育課題などについて率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

・新潟市教育委員会との教育懇談会

平成29年1月6日、新潟市教育委員会との教育懇談会を開催した。

新潟大学教育学部の現状、平成29年度教員採用状況及び平成30年度以降教員採用の見通し、学校現場が抱える教育課題などについて率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

・見附市教育委員会との連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、見附市内の全ての小・中・特別支援学校13校へ出前授業「みつけこども大学」として講師を13名派遣した。

・三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、市内の小・中学校4校へ「学習支援ボランティア」を4名派遣した。

・燕市教育委員会との連携事業

平成23年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、燕市教育委員会との連携事業として、「学習ボランティア」の募集を行い、市内の小学校4校及び中学校3校に対して、学習支援等として延べ14名を派遣した。

また、市教育委員会の事業「小学校5年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室」に1名を派遣した。

5.4 委員就任状況

《主な委員就任状況》

新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県文化財保護審議会委員』
- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『新潟県青少年健全育成審議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『「地域に根ざすキャリア教育推進会議」座長』
- 『新潟県学校保健推進協議会委員』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会及び特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『指導改善研修に係る審査検討委員会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会・同ワーキングチーム会議委員』
- 『新潟県子どもの貧困対策推進計画検討委員会委員』
- 『新潟県幼児教育の振興に関する政策プログラム策定委員会委員』
- 『特別支援学校就労支援検討委員会委員』
- 『新潟県健康づくり推進懇談会委員』
- 『新潟県スポーツ推進審議会委員』
- 『新潟県立近代美術館協議会委員』
- 『県立歴史博物館評価委員』
- 『新潟県労働委員会公益委員』
- 『不登校対策検討会議委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』

新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市清掃審議会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『第6期新潟市教育ビジョン推進委員会委員』
- 『新潟市就学支援委員会委員』
- 『新潟市環境審議会委員』
- 『新潟市景観審議会委員』
- 『新潟市文化創造推進委員会委員』
- 『新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会委員』

長岡市

『人権懇談会委員』

『スポーツ推進計画策定検討委員会委員』

『長岡市就学支援委員』

燕市

『燕市障がい者自立支援協議会療育支援専門部会委員』

三条市・三条市教育委員会

『三条市教育事務点検評価委員』

『三条市小中一貫教育推進委員会委員』

新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

見附市教育委員会

『学校評価アドバイザー』

妙高市教育委員会

『妙高市歴史文化基本構想策定委員会委員』

文部科学省

『高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育運営指導委員』

国土交通省国土地理院

『平成27年度治水地形分類図の更新（北陸地区）治水地形判定委員会委員』

上越教育大学

『上越教育大学CST養成事業実施委員会委員』

独立行政法人 海洋研究開発機構

『地球掘削科学推進委員会掘削航海専門部会委員』

公益財団法人 新潟県体育協会

『スポーツ医科学委員会委員』

公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団
『理事』

財団法人 會津八一記念館
『評議員』

社会福祉法人 輝風会
『理事』

社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会
『新潟市ボランティア市民活動支援センター運営委員』

社会福祉法人 新潟地区手をつなぐ育成会
『理事』

西日本高速道路株式会社
『新名神高速道路大阪府自然環境保全検討委員会委員』

公益財団法人リバーフロント研究所
『河川・海岸環境等検討委員会委員』

青森県教育委員会
『青森県内の貝塚遺跡群重点調査委員会委員』

全国GIS技術研究会
『「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」委員』

6. 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業

2016年度国際交流事業

一 北京師範大学珠海校および北京聯合大学訪問交流事業

今年度は11月17日から24日の8日間で行われた。本事業は比較文化論、比較制度論、多文化共生実習6単位の講義である。参加者は、学生35名 引率教員8名であった。中国側の参加者は2大学教員25名、学生は約200名、附属教員は50名を越えた。

本事業はアジアの教育文化を現地に訪問して学び、参加学生の国際認識力の向上を基本目的とする。内容は次のように構成されている。① 北京師範大学珠海校で新潟の伝統文化および新潟の教育の特色を新潟大学の学生が報告し討論する。また師範大学学生が広東省の文化や教育の特徴を報告し討議する。② 北京師範大学附属南澳実験学校および惠州実験学校を訪問し、日本紹介の授業を行い、それをもと附属実践小学校の教員と討議する。③ 北京聯合大学国際交流学院を訪問し、聯合大学の国際交流活動について学習すると同時に新潟大学の紹介を行い、それを基に討議を行った。④ 北京市及び広州市の歴史遺産をテーマにそくして見学する—今年度のテーマは中国の近代—であった。⑤帰国後 2月北京師範大学珠海校教員が新潟大学を訪問し、学生に講義を行う。今年度は2月3日から5日まで呉忠魁教授他4名の教員が講義を行った。参加学生は学部20名、教職大学院生3名だった。

今年度は特に音楽科が慶州実験小学校で公開した「チンドン屋」と学習社会ネットワークの学生の「影絵」の授業が大変好評を博した。また初めて教職大学院生も12名参加し院生交流もできたことが大きな成果であった。

6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

○学術交流（研究者派遣）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	志賀 隆	大韓民国	the 7th EAFES (The East Asian Federation of Ecological Societies) International Congressへの参加とシンポジウムにおける口頭発表	2016/4/19	2016/4/23	基幹的経費
教授	堀 竜一	台湾	第11回国際芥川龍之介学会台湾大会出席及びフィールドワーク	2016/5/4	2016/5/9	本人負担
特任教授	高橋 雄一	中華人民共和国	研究大会への参加, 附属学校見学 他	2016/5/18	2016/5/22	本人負担
教授	吉澤 克彦	中華人民共和国	研究大会への参加, 附属学校見学 他	2016/5/18	2016/5/22	本人負担
准教授	雲尾 周	中華人民共和国	研究大会への参加, 附属学校見学 他	2016/5/18	2016/5/22	本人負担
准教授	岸本 功	ブラジル	VIII Workshop on String Field Theory and Related Aspectsに参加	2016/5/29	2016/6/5	渡航費:科研費若手研究(B) 代表:岸本功 滞在費:先方負担
教授	向山 恭一	中華人民共和国	集中講義, 附属学校見学 他	2016/6/2	2016/6/6	本人負担
教授	吉澤 克彦	中華人民共和国	集中講義, 附属学校見学 他	2016/6/2	2016/6/6	本人負担
教授	相庭 和彦	中華人民共和国	集中講義, 附属学校見学 他	2016/6/2	2016/6/6	本人負担
特任教授	高橋 雄一	中華人民共和国	集中講義, 附属学校見学 他	2016/6/2	2016/6/6	本人負担
准教授	雲尾 周	中華人民共和国	集中講義, 附属学校見学 他	2016/6/2	2016/6/6	本人負担
教授	佐藤 亮一	ドイツ	第11回合成開口レーダに関する欧州会合に出席	2016/6/3	2016/6/11	科研費基盤研究 (C)
准教授	高清水 康博	ロシア	津波堆積物調査	2016/7/5	2016/7/14	科研費基盤研究 (B) 海外学術調査代表 (谷岡)
准教授	村山 敏夫	アメリカ合衆国	国際学会の参加	2016/7/5	2016/7/10	受託研究費 代表:村山敏夫
准教授	足立 幸子	アメリカ合衆国	International Literacy Association2016年度年次大会出席	2016/7/7	2016/7/13	科研費基盤研究 (C) 代表:足立幸子
名誉教授	小林 昭三	ブラジル, アメリカ合衆国	第2回WCPEサンパウロ, 及びAAPT2016夏期研究大会に参加	2016/7/7	2016/7/23	科研費基盤研究 (B)
教授	佐藤 亮一	中華人民共和国	2016地球科学及びリモートセンシングに関する国際会議 (IGARSS2016), 及びレーダ'ポーラリメトリに関するワークショップ参加	2016/7/10	2016/7/17	科研費基盤研究 (C) 代表:佐藤亮一
教授	土佐 幸子	アメリカ合衆国	大学物理授業改善プロジェクトの一環として米国大学訪問, 学会発表	2016/7/12	2016/7/21	科研費基盤研究 (B) 代表:土佐幸子
教授	伊野 義博	ブータン	ブータンの民族音楽研究, 音楽教育研究	2016/7/20	2016/7/25	科研費基盤研究 (B) 代表:伊野義博
准教授	山口 智子	大韓民国	XXIII IFHE World Congress2016への参加及び研究発表	2016/8/1	2016/8/7	科研費基盤研究 (C) 代表:山口智子
准教授	小林 繁子	ドイツ	史・資料調査	2016/8/3	2016/8/21	科研費若手研究(B)

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	牛山 幸彦	大韓民国	2016日本・韓国大学生卓球交流戦参加	2016/8/20	2016/8/25	先方負担：日本学生卓球連盟
准教授	前田 洋介	中華人民共和国	The 33rd international Geographical Congressへの参加及び同会での発表	2016/8/21	2016/8/26	科研費基盤研究 (B) 代表：山崎孝史
教授	佐藤 亮一	大韓民国	2016 URSI アジア・太平洋電波科学会議に出席	2016/8/21	2016/8/25	環東アジア・ボーダレス化 対応教育・研究事業センター
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究 (B) (海外) のための調査と資料収集	2016/8/24	2016/9/4	科研費基盤研究 (B)
准教授	志賀 隆	大韓民国	Korea National Herbariumにおける標本調査及び、水生植物の種子収集	2016/8/30	2016/9/6	科研費基盤研究 (C) 代表：志賀 隆
准教授	山口 智子	ラオス人民民主共和国	ラオスにおけるキノコ資源の利用調査	2016/9/15	2016/9/21	科研費基盤研究 (B) 代表：野中健一
准教授	小野 映介	ラオス人民民主共和国	ラオスにおけるキノコ資源の利用調査	2016/9/16	2016/9/21	科研費基盤研究 (B) 代表：野中健一
教授	伊野 義博	ブータン	ブータンの民族音楽研究, 音楽教育研究	2016/9/21	2016/9/28	科研費基盤研究 (B)
教授	麓 慎一	イギリス	科学研究費の研究遂行のための調査	2016/10/2	2016/10/8	科研費基盤研究 (B) 代表：麓慎一
教授	相庭 和彦	イギリス	大英博物館の歴史に関する文献調査	2016/10/15	2016/10/20	本人負担
准教授	村山 敏夫	モンゴル	運動機能開発研究・地域資源活用プログラム開発に向けた情報共有会議	2016/10/24	2016/10/28	受託研究費
教授	鈴木 賢治	中華人民共和国	国際会議ICMST2016Shrnzhenにおける講演及び科研費の成果発表	2016/10/31	2016/11/6	科研費基盤研究 (C)
教授	相庭 和彦	中華人民共和国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校・附属学校との交流事業	2016/11/17	2016/11/25	学生教育充実経費
教授	伊野 義博	中華人民共和国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校・附属学校との交流事業	2016/11/17	2016/11/25	学生教育充実経費
教授	向山 恭一	中華人民共和国	北京聯合大学との交流事業および院生指導に係る文化施設見学	2016/11/17	2016/11/20	学生教育充実経費
准教授	雲尾 周	中華人民共和国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校・附属学校との交流事業	2016/11/17	2016/11/25	学生教育充実経費, 基幹的経費 (教育), 教育研究活動等支援経費
准教授	金子 淳嗣	中華人民共和国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校・附属学校との交流事業	2016/11/17	2016/11/25	グローバル人材育成推進事業経費, 基幹的経費, 学生教育充実経費
教授	吉澤 克彦	中華人民共和国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校・附属学校との交流事業	2016/11/17	2016/11/25	グローバル人材育成推進事業経費, 基幹的経費
教授	宮 菌 衛	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との交流事業	2016/11/19	2016/11/24	基幹的経費
准教授	杉澤 武俊	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との交流事業	2016/11/19	2016/11/24	学生教育充実経費
准教授	中島 伸子	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との交流事業	2016/11/19	2016/11/24	学生教育充実経費

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	小林 日出至郎	中華人民共和国	北京師範大学附属校園との国際交流	2016/11/21	2016/11/24	本人負担
教授	佐藤 亮一	台湾	ICSANE2016に出席するため	2016/11/23	2016/11/26	科研費基盤研究 (C) 代表：山口芳雄
准教授	森下 修次	アメリカ合衆国	The 5th joint meeting of the Acoustical Society of America and the Acoustical Society of Japan に参加	2016/11/29	2016/12/3	本人負担
准教授	足立 幸子	アメリカ合衆国	Literacy Research Association 66th Annual Conference (リテラシー研究学会第66回年次大会) への参加	2016/11/29	2016/12/4	科研費基盤研究 (C)
名誉教授	小林 昭三	オーストラリア	第13回アジア太平洋物理国際会議2016 (APPC-AIP CONGRESS 2016) に参加	2016/12/2	2016/12/9	科研費基盤研究 (B)
准教授	田中 咲子	オーストラリア	授業(地域美術論160K8610)の一環である海外研修の引率	2016/12/6	2016/12/11	渡航費：グローバル経費, 美術科共通経費 滞在費：本人負担
准教授	永吉 秀司	オーストラリア	古美術研修のための学生引率	2016/12/6	2016/12/11	渡航費：グローバル経費, 美術科共通経費 滞在費：本人負担
准教授	田中 咲子	大韓民国	環東アジア地域教育研究センター(仮称)設置準備事業に関わる調査	2016/12/20	2016/12/23	環東アジア地域教育研究センター(仮称)設置準備事業に関わる調査事業費
准教授	小野 映介	南アフリカ共和国	科研課題(住民の微量元素獲得から見た環境適応の統合的研究)に関する現地調査	2017/1/2	2017/1/10	先方負担
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B(海外)のための調査と資料収集	2017/1/21	2017/2/5	科研費基盤研究 (B) 代表：麓慎一
教授	藤林 紀枝	オーストラリア	アメリカ地球物理連合チャップマン会議「海底火山活動：新たなアプローチと研究フロンティア」に出席	2017/1/28	2017/2/8	科研費基盤研究 (C)
准教授	雲尾 周	中華人民共和国	北京市における教育局長研修に係る聞き取り調査	2017/2/19	2017/2/22	科研費基盤研究 (B)
教授	麓 慎一	アメリカ合衆国	科学研究費補助金基盤研究B(海外)のための調査と資料収集	2017/2/26	2017/3/6	科研費基盤研究 (B) 代表：麓慎一
教授	土佐 幸子	インドネシア	科研費プロジェクトの一環としてインドネシアの高校におけるデータ収集	2017/3/5	2017/3/10	科研費挑戦的萌芽研究 代表：土佐幸子
教授	笠井 直美	中華人民共和国	日本および中国における保健管理、保健教育の比較検討並びに性犯罪被害対策および人工妊娠中絶防止の緊急避妊薬情報を含む学校での性教育方法の検討	2017/3/5	2017/3/9	科研費基盤研究 (C) 代表：笠井直美
名誉教授	小林 昭三	大韓民国	CIEC国際活動委員会の2017年韓国視察・交流団に加わり科学研究費(基盤B)の研究の一環として、韓国のICT関連の最新状況・情報の視察や歴史的価値のある資料館・博物館等の探索と最新の成果での研究交流を実施	2017/3/25	2017/3/30	科研費基盤研究 (B)
准教授	興治 文子	大韓民国	韓国における歴史教科書及びICT活用理数教育の情報収集および研究交流	2017/3/27	2017/3/30	科研費基盤研究 (B) 代表：小林昭三
准教授	橋本 学	イギリス, フランス	ロンドン, パリの中心部の河川環境の調査及びデザイン資料の収集	2017/3/27	2017/4/4	共同研究「景観・環境を意識した浚渫船のデザイン研究」
講師	鈴木 愛美	オーストリア	声楽の発声法・音楽表現の研鑽, 歌唱法の教育方法の研究	2017/3/9	2017/3/22	本人負担
准教授	石垣 健二	スイス, ドイツ	科研研究課題のレビュー及び訪問大学での調査研究と資料収集	2017/3/19	2017/3/27	科研費基盤研究 (C)

○学術交流（研究者受入れ）

職名	氏名	所属	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	PARK BUMYOUNG	漢陽大学	アジア大学スポーツ交流プロジェクトの参加	2016/11/22	2016/11/26	学系共通環東アジア
卓球コーチ	ZHANG HUANYU	哈爾濱商業大学	アジア大学交流プロジェクトへの参加	2016/11/23	2016/11/27	学系共通環東アジア
助手	金文基	釜経大学	水産研究・教育機構中央水産研究所図書資料室，神奈川県常民文化研究所において調査	2016/12/11	2016/12/13	科研費挑戦的萌芽研究 代表：麓 慎一
研究員	呉昌炫	国立民族博物館	水産研究・教育機構中央水産研究所図書資料室，神奈川県常民文化研究所において調査	2016/12/11	2016/12/13	科研費挑戦的萌芽研究 代表：麓 慎一
所長	Monika Raharti	インドネシア青少年科学センター	高校物理授業の国際比較研究の一環として埼玉県と新潟県の公立高校の授業参観とインタビュー，打ち合わせ	2017/1/17	2017/1/20	科研費挑戦的萌芽研究 代表：土佐 幸子
IITP Professor	Dmitry Alekseevskiy	IITP	研究会「Quaternionic Differential Geometry and its Related Topics」の助言・指導及び講演者	2016/9/4	2016/9/10	科研費基盤研究 (C) 代表：長谷川敬三
名誉教授	David R. Sokoloff	オレゴン大学	大学の物理教育に関する協議会話題提供とアクティブラーニングについての指導・助言	2016/8/2	2016/8/7	科研費基盤研究 (B) 代表：土佐幸子

7. 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度から研究主題を「豊かに考える子どもを育む教育課程の編成 - 1年次研究-」と改め、新学習指導要領の方向性を見据え、教育課程編成に着手した。並行して、指定研究授業（18回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から2,000名を越える参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要第74集 豊かに考える子どもを育む教育課程の編成」（年1回発行）、研究誌「授業の研究（Fねっと+）」（年3回発行）等において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。さらに、2月には当校が取り組んでいるツール活用能力の育成のノウハウを一冊にまとめた「ICT×思考ツールでつくる主体的・対話的で深い学び」（小学館）を出版した。「学習スキル」、「学級力」に続き、附属新潟小学校が全国に先駆けて発信する第3弾である。

② 教育実習生の受入と指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受入は次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生15名、5月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生72名、9月5日～9日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生27名 6月6日～17日）
- d. 秋期教育実習（3・4年生、大学院生、別科生36名 10月24日～11月4日）

③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

a. 小中9か年を見通した教育活動

- ・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を図る。

b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動

- ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動。
- ・文化祭（附属アートミュージアム）での特別支援学校生徒作品の展示。

c. 異文化交流活動

- ・平成28年6月26日(日)～29日(水) 訪日

平成27年6月26日(日)～29日(水)に、新潟大学教育学部が交流協定を結んでいる北京師範大実験小学から校長をはじめ、計5名の職員が6月27日～29日に来校。学習参観と教育協議会を開催。その他に総合的な学習の時間の国際理解教育として、子どもたちが日本の伝統文化を紹介した。学習参観と教育協議会では、参観・参加していただいた学級活動（学級経営も含む）と伝統文化について協議を行った。

- ・平成28年11月19日(土)～24日(木) 訪中
平成27年11月19日～24日の行程で、校長及び当校教職員1名が、新潟大学の訪問団の一団として交流協定を結んでいる北京師範大学実験小学珠海分校等を訪問。師範事業（総合的な学習の時間）及び、各教科・領域の視察を行った。
- ・平成29年2月9日(木)～10日(金) 訪日
平成27年2月9日～10日に開催した初等教育研究会に、北京師範大学珠海分校から副校長をはじめ、述べ6名の職員が参加し、公開授業及び教育協議会を参観した。
- ・平成28年12月～ 授業交流
平成28年12月から北京師範大学実験小学惠州分校とテレビ電話による授業交流を行っている。具体的には、総合的な学習の時間及び外国語活動の内容の中で、定期的に成果を発表したり、いくつかの話題に対し、議論をしている。

④ 食に関する指導等，健康教育に関する取組

- ・道徳や特別活動等の時間，給食の時間等を活用し，栄養教諭による食に関する指導を実施した。また，初等教育研究会において授業を公開し，研究協議会を開催した。
- ・平成29年1月23日の学校保健委員会において，新潟大学医歯学総合病院 長谷部日様より「学童にとって身近な目の問題」の演題で講演いただいた。
- ・児童会保健委員会と連携して，感染予防の啓発活動を行った。
- ・体育や特別活動等の時間を利用して，養護教諭の協力を得て学級担任が授業を実施した。
- ・初等教育研究会において，養護教諭による「病気の予防－がん教育－」の授業を公開し，研究協議会を開催した。

⑤ 学びを生かした児童の主な活躍

- ・新潟県競書大会，新潟県書初大会，新大全国書初大会など各種大会入賞多数
- ・新潟県課題図書読書感想文コンクール最優秀賞受賞ほか入賞者多数
- ・第62回青少年読書感想文コンクール毎日新聞社賞，サントリー奨励賞
- ・明るい家庭づくり運動に関する作文入賞者多数
- ・2017交通安全標語コンクール入賞者多数
- ・炎天寺一茶まつり全国小中学生俳句大会秀逸賞
- ・いきいきわくわく科学賞2017県奨励賞受賞
- ・第52回新潟市児童・生徒科学研究発表会発表者多数
- ・第49回ジュニア展，第13回新潟教育アート展など入賞者多数

⑥ その他

- ・当校教員の学部授業への参加：11名18回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：14名51回
- ・教員研修の受入：初任者研修1回
- ・視察受け入れ：国内17回（新潟県，山形県，香川県，愛知県，千葉県，福岡県，福島県，静岡県，鳥取県，栃木県，鹿児島県，東京都より）
国外1回（台湾）

(2) 研究会、講演会の開催

① 平成28年度附属新潟小学校中間検討会

- a. 日 時 2016年9月30日(金)
- b. 会 場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「豊かに考える子どもを育む教育課程の編成 - 1年次研究 -」
- d. 内 容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明，協議，指導等）
- e. 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約90名

② 平成28年度初等教育研究会

- a. 日 時 2017年2月9日(木)・10日(金)
- b. 会 場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「豊かに考える子どもを育む教育課程の編成 - 1年次研究 -」
- d. 内 容 C C T・公開授業・全体会・シェアリングタイム・フォーラム・シンポジウム
フォーラム1「協働性フォーラム」：
講師 新潟大学教育学部 准教授 一柳 智紀
フォーラム2「ツール活用能力フォーラム」：
講師 東北大学大学院情報科学科 教授 堀田 龍也
講演会I「これからの授業づくり講演会」：
講師 東北大学大学院情報科学科 教授 堀田 龍也
講演会II「これからの教育課程講演会」：
講師 京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井 英真
- e. 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内・県外の教員等，合計約1,300名（延べ約2,000人）

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 第74集 豊かに考える子どもを育む教育課程の編成 - 1年次研究 -』（年1回発行）
- b. 『授業の研究（Fねっと+）』（第197号，第198号，第199号：年3回発行）
年間テーマ「豊かに考える子どもを育む教育課程の編成」
毎号の特集「コンピテンシー・ベースの授業づくり」「教科横断的に資質・能力を育成する授業づくり」「学習指導要領改訂に向けた授業づくり」

② 教員の著書・論文・研究発表

- ・茂木智弘「資質・能力」育成の授業とは？～子どもの姿から考える～」教育研究12号（筑波大学附属小学校 一般社団法人 初等教育研究会）
- ・堀田雄大「教育技術一年生 ～先生方の意識調査～」2017年1月号,6月号（小学館）
- ・山形 昭「自分と手本の動きを比較し，技能を高めるためのタブレット端末の活用」，『楽しい体育の授業』2017年3月刊行予定（明治図書）
- ・山形 昭「運動有能感を高める”タイムリミットリレー走”」，『体育科教育』2017年3月号（大修館書店）

- ・尾形美穂「マンガで学ぼう！ アクティブ・ラーニングの学級づくり」(株式会社金子書房)
- ・桑原浩二「小学校高学年の意見文指導における文章化過程に関する研究」全国大学国語教育学会第130回新潟大会 発表
- ・桑原浩二「文章化過程を往還させた意見文指導-再取材・再構成のプロセスを重視して-」『教育科学 国語教育』平成2016年9月号(明治図書出版株式会社)
- ・片山敏郎「小学生から社会に必要な資質・能力を育む！ デジタル思考ツールとデジタルファシリテーション」iteachers カンファレンス2016 (同志社中学校) 2016年4月16日
- ・片山敏郎「1 to 1 をあきらめないー教科等を越えた全ての学習の基盤として生まれ活用される資質・能力の育成のためにー」日本教育工学会 全国大会(大阪大学) 2016年9月19日
- ・片山敏郎「アクティブ・ラーニングにおけるICT活用の可能性」『教育技術アクティブ・ラーニング増刊』2016.7月(小学館)
- ・片山敏郎「実社会の問題について協働的に探究する授業づくり学級づくり」『小6教育技術』2016.6月号(小学館)
- ・片山敏郎「アクティブ・ラーニングを促す課題設定とタイムマネジメントのポイント」『小6教育技術』2016.7月号(小学館)
- ・片山敏郎「子ども自身がデジタル教材を見出し、創り出す授業」『学習情報研究』2017年3月号(学習ソフトウェア情報研究センター)
- ・大矢和憲 国立教育政策研究所 教育課程研究センター関係指定事業 教育課程研究指定校事業①研究協議会発表 ②研究報告執筆
- ・志田倫明「2桁の筆算の授業」, 『小三教育技術8・9月号』2016年8月(小学館)
- ・志田倫明「問いの連続が学びを深める」『算数授業研究vol107』2016年10月(東洋館出版)
- ・志田倫明「考えを修正しながら納得を創り出す力」, 『算数授業研究vol109 論究』2017年2月(東洋館出版)
- ・志田倫明「子どもをアクティブにする仕掛けがわかる授業」, 『主体的・対話的で深い学び30』2017年3月(明治図書)
- ・志田倫明「考えや結論を修正する力」, 『資質・能力を育成する算数科授業モデル』2016年3月(学事出版)
- ・三星雄大「カリキュラム・マネジメント入門」(東洋館出版社)
- ・岡田崇宏「高学年での高学力を目指して 北四式ここまで育てておきたい小二算数」『小二教育技術11月号』2016年11月(小学館)

7.2 附属新潟中学校

(1) 特色ある教育活動

① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

実践研究「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」の推進

ア 研究の内容

生徒が「『学ぶ喜び』を実感・納得する中で、「生徒が自分にとって意味あるものと価値付けた個々の思考操作，学習方略，情意・態度等」を「思考のすべ」と定義している。

今年度，教科・領域で生徒が見いだす「思考のすべ」から教科・領域横断的に見いだす「思考のすべ」を明らかにし，生徒が教科・領域横断的な「思考のすべ」を，価値あるものとして自分の生き方に関係付けられるようにした。

<重点的に取り組んだこと>

○ 思考の広がり深まりの中で，「学ぶ喜び」を実感・納得していく授業の構想

→ 生徒の思考を活発にする手だてとして，3つの重点「意味ある文脈での課題設定」「対話を促す工夫」「メタ認知を促す工夫」を設定し，生徒の「学ぶ喜び」の実感・納得をより促し，教科・領域における「思考のすべ」の育成

○ 総合的な学習の時間―「生き方・学び方」の時間の新設

→ カリキュラム・マネジメントの視点から，教科・領域で見いだした「思考のすべ」を俯瞰・整理させ，教科・領域横断的な「思考のすべ」の育成

<具体的な取り組み>

(i) 意味ある文脈での課題設定

課題を解決する必要性を感じる状況に直面する中で，生徒の思考を活発に促すため，教師が授業を構想する際に，生徒の実態に応じて，教材を適切に選択，組み合わせ，生徒が課題を見いだせるようにした。授業では，生徒の既有知識・経験から生じる疑問などの問題意識を喚起させ，追究したくなるような状況設定をした。状況設定は次の視点を踏まえた。

- 生徒の提案，作品などが社会や実生活の問題の解決に関連し，社会参画を実感できる教材構成
- 社会や実生活の中で，学習内容を実際に活用でき，そのよさを実感できる教材構成
- 現実の専門分野の知識・技能と結びつける事象やモデル提示
- 芸術作品の作者の思い，時代背景を象徴する資料の提示

(ii) 対話を促す工夫

「対話」は，仲間の考えを受けとめ，自分と仲間との考えの違いを比べたり関係付けたりして，考えが質的に変容するに促される。そのために，互いの考えを交流・検討する必要性をもたせ，同じ目的や視点を基に，考えをかかわらせるようにした。そして，違った考えをもった者同士で疑問点を交わし合わせたり，自分がどのように考えたか思考過程を視覚化させたりして互いの考えの理解を促した。対話を促すために，次の視点を踏まえた。

- 課題の質（意味ある文脈での課題設定）
- 論点，論題，視点などの明確化
- 互いの考えの共通点，相違点が明確になるための視覚的な支援
- 互いの考えを比べたり，関係付けたりする環境整備

(iii) メタ認知を促す工夫

○ 教科・領域におけるメタ認知を促す工夫

生徒が自らの思考を客観的に振り返られるように、思考を可視化するワークシート、ホワイトボード、映像、模造紙などを活用した。さらに、課題解決過程においては、自らの「学び」を価値付けられるように、学習過程の記録を基にした振り返りの場を設定したり、学んだことを関連した内容に活用したりする場面を設定した。

○ メタ認知と「思考のすべ」（教科・領域と教科・領域横断的なもの）

教科・領域における課題解決についてメタ認知を促し、自らの思考操作を振り返って有用だと感じたものを「すべカード」に記入させた。そして、様々な教科の「すべカード」を俯瞰・整理しながら気付いたことをワークシートにまとめさせ、自らの「思考」をグルーピング・ラベリングすることで教科・領域を横断した「思考のすべ」を見いだせた。

さらに、総合的な学習の時間に「生き方・学び方」の時間を設定した。パーソナルポートフォリオを作成することを通して、生徒が教科・領域での1つ1つの学習を紡ぎ、教科横断的な「思考のすべ」を、自分の生き方に関係付け、これからの社会に必要な資質・能力として実感を促す時間とした。パーソナルポートフォリオ（以下、PPF）とは、生徒のこれまでの「学び」の履歴（教科・領域のワークシート、ノートのコピー、文集、冊子、部活動の賞状、各自の趣味の作品など）を、自らの成長として紡いだものである。

イ 成果と課題

<成果>

- 生徒の思考を可視化しながら、生徒に互いの考え方を交流させたり、答えに至るまでの過程を客観視させたりするなどしたことで、「思考のすべ」の有用性の実感が高まった。
- 全校生徒の81%が、PPFの有用性を感じている。多くの生徒がPPFの活用を通して、教科・領域横断的な「思考のすべ」を自分の生き方に関係付けられるようになっている。

<課題>

- 有用な思考を事後的に抽出することは大切であるが、ややもすると思考スキルの直接的指導になりかねない。今後も思考過程に対して、どのようにメタ認知を促すかは検討すべきである。
- 教科・領域の本質的な学びに基づいた教科・領域横断的な授業・単元構想からの教育課程の編成を行う必要がある。

② 学部と連動した活動

a. 学校インターンシップの受け入れ

今年度は実施しなかった。

b. 学部教員および学生との共同研究

今年度は実施しなかった。

c. 研究会等における学部教員との連携の強化

ア. 春の授業研究会では、協議会において、13名の学部教員の方々から指導をいただいた。

イ. 秋の研究発表会では、協議会において、13名の学部教員の方々から指導をいただいた。

d. 学生による学習ボランティア

英語と社会科の授業において、2名の学習ボランティアが活動した。

③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

11月17日（木）に、附属新潟小学校、附属特別支援学校と同一敷地内に校舎が位置していることから、不審者が侵入した際の通報と安全確保の訓練を合同で実施した。

(2) 教育実習

① 期日，受入人数

a. 春期教育実習	5月30日（月）～6月10日（金）	17人 （うち母校実習3人）
b. 2年次観察実習	9月5日（月）～9月9日（金）	99人
c. 秋期教育実習	10月24日（月）～11月4日（金）	21人
d. 1年次入門実習	年間3回合計3日間	12人

② 特色ある実習内容

- 春期教育実習，秋期教育実習において，道徳の指導案を作成し，学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。
- 2年次観察実習において，同一敷地内にある小学校を参観する機会をもった。

(3) 研究会，講演会等の実施

① 授業研究会（会場 附属新潟中学校）

（テーマ「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」）

- 5月～7月（各教科で日時を設定）全必修教科で授業研究を行った。全教科とも，学部教員や行政関係者が参観した。また，すべての教科において，公立・私立校の教員も授業を参観し，協議会にも参加した。（合計101人）
- 9月28日（水）国語，社会，数学，理科，音楽，美術，体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合学習の各教科，取組において，学部教員や行政関係者，公立校の教員とともに，中学校研究発表会に向けて授業案の検討を行った。
- 12月27日（火）校内研修に国立教育研究所より後藤顕一先生を指導者としてお招きし，全職員で授業研究を行った。

② 平成28年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」）

- 期日 10月21日（金）
- 内容 授業公開（国語，社会，数学，理科，英語，音楽，美術，保健体育，技術家庭，道徳，特別活動，総合学習）
授業協議会
- 参会者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計 522 人

③ その他

- 初任者研修授業研修協力校（授業参観研修1）
 - 期日 6月14日（火）
 - 参加者 下越教育事務所管内初任者 中学校10人，特別支援学校4人，聾学校1人
下越教育事務所指導主事，当校職員
 - 内容 授業公開（各教科），研究協議，講話
- 学校視察の受け入れ

- ・ 船橋市教務主任研究協議会 教諭 7 人 (6月17日(金))
- ・ 山形県天童市立第四中学校 教諭 1 人 (10月31日(月)～11月2日(水))
- ・ 福岡教育大学附属福岡中学校 教諭 1 人 (2月1日(水))

(4) 研究報告等

① 研究誌

- a. 研究紀要 「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」(3年次)
- b. 公開授業案 (10月21日発行)

② 研究成果の発信

平成28年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会にて、当校の研究の概要について発表した。(2月9日 東京)

7.3 附属特別支援学校

1. 特色ある活動

(1) 連携・交流活動

【新潟地区附属三校等交流活動】

- ・ 附属長岡幼稚園・小学校の入試業務，附属長岡校園への教育相談
- ・ 附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・ 小集団グループによる授業交流：小学部3～4年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童，中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・ 小学部1、2年生児童と附属新潟小学校低学年複式学級児童（授業交流）
- ・ 小学部5、6年生児童と新潟市立新潟小学校特別支援学級児童（授業交流）

【発達障害児教育】

- ・ 新潟市教育委員会特別支援教育担当指導主事とともに研究授業協議会の実施
- ・ 新潟市内小・中学校主催支援会議への参加 33校延べ129回

【学部との連携活動】

- ・ 当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ7人
- ・ 教員免許状更新講習に，管理職のほかにゲストスピーカーとして教諭1人参加
- ・ 当校教員が講師として教職大学院講義への参加：教育課程等について2回，延べ3人
- ・ 学生ボランティアの登録：登録56人
- ・ 行事等の学生ボランティアの参加：運動会10人，特別支援教育研究会40人
すなやま祭38人，学部・学級行事14人

【学生との連携・交流活動】

- ・ 中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月1回程度開催
- ・ 保護者有志が教育学部学生や院生と連携して運営する放課後活動（アフタースクール）への支援，会場提供：月3回程度実施，研究会とすなやま祭での発表と作品展示

【地域との連携・交流活動】

- ・ 医歯学祭作品展示
- ・ 旭町展示館キャンドルナイト・作品展示

【卒業生との交流活動】

- ・ 第1回すなやま会(同窓会)の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。
(8月20日開催。高等部生徒30, 卒業生65, 卒業生保護者29, 旧職員6人, 現職員30人参加)
- ・ 第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定
(1月28日開催。卒業生62人, 卒業生保護者28人参加)

【新潟市との連携】

- ・ 放課後支援事業ほっぷこーんクラブ（すなやまの家を会場に提供）延べ約2,500人利用

(2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

【発達障害通級指導教室の開設】

- ・ 通級指導教室：新潟市内小・中学生43人週1回定期支援
- ・ 教育相談：不定期は多数

【教育相談・支援活動】

- 研究会・研修会講師等

- ・阿賀野市発達障害早期総合支援推進地域協議会 岡田 義則
- ・県立教育センター研修会講師 久住 和彦
- ・県初任者研修講師 安藤 淑美
- ・新潟市立有明台小学校校内研修講師 横堀 壮昭
- ・新潟市立牡丹山小学校校内研修講師 小田 理絵, 谷内田 繁

(3) 実習生・研修生の受け入れ

【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生15人（5月28日,8月19日,9月7日）
- ・教育実習生の受入（春期：25人 秋期：22人）
- ・養護教諭特別別科1日観察参加実習：49人（11月25日）
- ・介護等体験生の受入（年間10回, 合計263人）
- ・インターシップの受け入れ：1年生 1人（6月～3月）

【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観（6月28日 28人）

(4) 学校行事等

【学校行事】

- ・運動会
- ・すなやま祭（学習発表会）
- ・職場実習等（高等部：前期6月20日～7月8日, 後期9月26日～10月14日）
- ・修学旅行（中学部3年生：東京方面 高等部3年生：関西方面）
- ・校内宿泊学習（全学部実施「すなやまの家」に宿泊）
- ・親子工作教室（小学部PTA）
- ・親子パン作り体験（中学部PTA）
- ・スキー・そり教室（全学部）
- ・卒業生を送る会（全学部）

【PTA保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校7校PTA懇談会参加
- ・全附属北信越地区研修会新潟大会特別支援学校部会企画運営参加
- ・附属新潟3校学校保健委員会参加

【学校評議員会】

- ・学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間3回

2. 研究会, 公開講座等の開催

(1) 研究会

- ・第39回特別支援教育研究会（12月4日開催）
 研究主題：子供が学びを深める姿をめざした授業づくり（第2年次）
 ～個別の指導計画を活用した支援の追究～
 参加者数：464名

7.4 附属幼稚園

(1) 特色ある活動

① 幼小中一貫教育カリキュラムを踏まえた幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、22年度より文部科学省の研究開発指定を受け、幼小中一貫教育研究に取り組んできた。その成果により文部科学省から指定延長を許可され、平成28年度まで継続して取り組むこととなった。「社会的な知性を培う」を研究テーマとして、子どもたちに持続可能な社会を創り上げる資質・能力をはぐくむ12年間の一貫教育カリキュラム開発を目指している。

幼小中一貫教育研究では、12年間で5つのステージに分け、発達段階を考慮したカリキュラムの編成を行ってきた。幼児教育では、3歳児から5歳児前半を第1ステージに位置付け、遊びを通して、資質・能力の「芽」をはぐくみ、「ひと・もの・こと」への愛情・愛着の形成を図ってきた。そのための環境構成と保育者の援助の在り方がどうあるべきかについて、子どもの事実を基に、分析し考察を行った。

5歳児後半からは、第2ステージとして小学校低学年との「異年齢協働型学習」に取り組んだ。幼児の学びと小学生の「学習」の様相を明らかにしながら、「遊び」から「学習」への円滑な接続と系統的な資質・能力のはぐくみをねらってきた。

② 教育実習生等の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- a 入門教育実習 (13名)
- b 春期教育実習 (7名)
- c 観察参加実習 (129名)
- d 秋期教育実習 (2名)
- e 他大学の教育実習 (新潟中央短期大学生 1名)

③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」や「校園合同避難訓練」も行っている。

- a 幼児と児童の遊びの交流(自由交流日)
- b 観客型連携による相互訪問
- c 中学生の保育参観、遊びの紹介
- d 5歳児の小学1・2年生との合同活動(社会創造科)
- e 研究授業・保育の相互参観
- f 授業・保育交流

④ 学部との連携

- a 教育研究協議会での公開保育・協議会や園内研究保育にかかわり、学部教員からの指導・助言を受ける。

b 校園合同研究にかかわる実態アンケート等の集約・評価における連携

⑤ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として新採用教員を対象とした研修会を実施した。

*新潟県幼稚園等新規採用教員研修会（14名 11月18日～19日）

⑥ 楽しい園行事

4月：春の交通安全教室

 こんにちはの会

 お花見散歩

5月：親子バス遠足（自然科学館）

6月：プール開き

 家族参加日（土曜参観）

7月：七夕会

9月：校園合同運動会

 秋の交通安全教室

10月：悠久山探検遠足

11月：秋の家族参加日

 作品展

12月：親子餅つき大会

1月：お正月お楽しみ抽選会

 かるた大会

 そり遠足（越後丘陵公園）

2月：豆まき会

3月：ありがとうの会（お別れ会）

(2) 研究会、講演会の開催

① 平成28年度教育研究協議会

ア 開催日 平成28年5月25日（水） 幼・小・中合同教育研究協議会

イ 会場 附属長岡校園各教室・保育室・体育館等

ウ 内容 研究主題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、二つの講演会を開催する。

〈講演会① 於 附属長岡小学校体育館〉

講師 名古屋大学名誉教授

安彦 忠彦 様

演題 「幼小中一貫教育の意義と課題」

〈講演会② 於 附属長岡中学校体育館〉

講師 文部科学省初等中等教育局視学官

津金美智子 様

演題 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方」

※ 講演会①②は、同時開催。参会者が選択して聴取。

② 幼稚園視察等の受入

県内幼稚園新採用教員 新採用教員を10名受け入れ（11月）

7.5 附属長岡小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

平成22年度からの3年間、文部科学省研究開発指定を受け、「社会的な知性を培う」の第1次研究に取り組み、研究成果をまとめ発表した。その成果が認められ、3年間の延長指定を受けた。これまでの指定を含め、平成25年度の研究開発校は計34件、98校となる。その中で延長指定を認められたのは附属長岡校園のみである。

第2次研究の研究開発課題は「『社会的な知性』を培うための幼・小・中一貫教育による知の循環型教育システムの研究開発」である。研究の概要は、幼・小・中12年間で五つの「ステージ」に構成し、各教科等と新設教科「社会創造科」に「協働型学習」を位置付けた一貫カリキュラムを開発し、知の循環型教育システムを構築・提案することである。

本年度は第2次研究第3年次（最終年次）のまとめの年である。

主な研究の内容は、次のとおりである。

ア 小中接続期に焦点を当てたカリキュラム開発と小・中の各教科の指導内容の位置付けの検討を通して、幼小中12年間の学びをつなぎ、生かす一貫カリキュラムの開発に取り組む。

イ 子供自らが、主体的に他者とのかかわりを求め、互恵的にかかわりながら「社会的知性」としての資質・能力を働かせるための「協働型学習」の単元を構成する視点や要素を明確にする。

ウ 「社会創造科」の内容を見直し、異校種間を含めた異学年・異年齢での授業や地域の人材の活用の仕方など、多様な「協働型学習」の在り方と適切な評価方法を開発する。

これらのことを課題として研究を進め、5月25日の教育研究協議会で発表した。また、年間を通して、継続的に授業研究を行いカリキュラム改善につなげた。



第2ステージ：算数（1年）

「積んで転がして見付けよう！かたちのちがい」



第3ステージ：音楽（3年）

「音の重なりを感じて歌おう」



第4ステージ：理科（5年）

「探ろう！電流が生み出す磁力」

② 教育実習生の受け入れと指導

- a 入門教育実習①サマースクール (1年生12名 6月23日～6月24日)
- 入門教育実習②栖吉川フェスティバル (1年生13名 6月29日)
- b 観察参加実習 (2年生59名 9月5日～9月10日)
- c 春期教育実習 (3・4年生及び別科生24名 6月5日～6月17日)
- d 秋期教育実習 (3・4年生及び別科生24名 10月24日～11月4日)
- e その他他大学の教育実習生の受け入れ2名

③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運

動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年2回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

a 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流

- ・幼稚園年長組と小学校1・2年生の合同授業
- ・児童会行事等における園児，児童の交流
- ・昼休みの交流
- ・附属長岡小教員による出前授業



附属長岡小教員による出前授業

b 中学校との連携

- ・「社会創造科」第4ステージで小・中児童生徒の授業交流
- ・小5年と中1年「持続可能な地域（長岡）を目指して」
- ・小6年と中1年「山古志の人々の生き方から自分たちの生き方を考えよう」



第4ステージ：合同授業



第4ステージ：山古志訪問

④ 大学・学部との連携

a 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童・保護者向けの授業

新潟大学教育学部岡村浩教授による講演「手書きの楽しさのいろいろ」と書道科学生5名による「書道パフォーマンス」



岡村浩教授による講演「手書きの楽しさいろいろ」



b 教育研究協議会における大学教員の授業講座

2名の大学教員が研究会当日，教員を対象とした授業講座を実施した。

- ・新潟大学教育学部 松井賢二教授「キャリア教育の重要性を考える」
- ・新潟大学教育学部 加藤茂夫教授「外国語活動におけるリスニング指導」

c 学部生による指導補助

4・5・6年児童が体育科の学生2名から8回にわたって体操の指導を受け，成果を12月3日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。

d 5年生の親子大学訪問

6月13日（月），大学の協力を得て，キャリア教育の一環として実施し，他学部で講義を受けた。（経済学部，理学部，工学部，農学部，災害復興科学研究所）

保護者の参加率（98%）が非常に高く、毎年参加者から好評を得ている。



新潟大学の様々な施設を訪問

⑤ 教育機関との連携

a 県教育委員会との連携

- ・小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。
(6月：「道徳」・算数小学校初任者16名, 9月：保健教育養護教諭初任者14名)
- ・免許状更新講習会の指導者・ゲストスピーカーとして協力した。
(副校長1名, 研究主任1名担当)

b 長岡市教育委員会・見附市教育委員会・三条市教育委員会との連携

- ・教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾」の事業に、研修指定校として協力した。(学級活動)
- ・長岡市教育センター主催の研修講座に講師として協力した。(生活科, 算数)
- ・見附市教育委員会主催の出前研修講座の講師として協力した。(国語, 算数)
- ・三条市教育委員会の小中一貫教育推進委員として協力した。(小中一貫推進委員1名)

c 公立学校・他附属との連携

○校内研修等指導者として派遣

- ・燕市立粟生津小学校 (総合1名)
- ・長岡市立新町小学校 (算数2名, 体育1名)
- ・長岡市立宮本小学校 (道徳1名)
- ・燕市立吉田小学校校 (防災教育1名)
- ・長岡市立信条小学校 (人権, 同和教育1名)
- ・新潟大学教育学部附属幼稚園 (幼稚園教育1名, 生活科1名, 算数1名)
- ・見附市立見附小学校 (算数1名)
- ・小千谷市立小千谷小学校 (算数2名)
- ・魚沼市立須原小学校 (算数1名)
- ・長岡市立大河津小学校 (算数1名)
- ・長岡市立新町小学校 (算数1名)
- ・長岡市立上所小学校 (算数1名)
- ・燕市立吉田北小学校 (総合1名)
- ・長岡市立川崎小学校 (外国語活動1名)
- ・公立校教員対象の各教科公開授業講座 (12教科延べ参加者数46名)

○研究視察受け入れ 2件6名 (福井大学, 札幌市)

d 北陸福祉保育専門学院生徒に授業公開・協議会

- ・子ども未来学科・福祉保育学科4年生 5名対象 全12学級授業公開
- ・子ども未来学科・福祉保育学科3年生 12名対象 国語2学級授業公開

⑥ 中国との交流

a 北京師範大学視察団受け入れ（13名来校）

- ・5月25日（水）～26日（木） 附属長岡校園研究協議会視察



北京師範大学訪問団視察

b 北京師範大学南奥実験学校，惠州附属学校等視察

- ・11月19日（土）～24日（木） 小林日出至郎校長 他 教諭2名
- ・中国での授業公開（生活科，社会科）



北京師範大学南奥実験学校，惠州附属学校等視察

⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに，学級活動や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a 食に関する個別的な対応の取組

- ・食への興味を引き出す「バックン通信」（食育に関する質問箱）の運用により，児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b 栄養教諭による講話等

- ・毎月1回，中学生への食育講話
- ・毎日の「食育新聞」の発行（小学校・中学校に掲示）
- ・学校ホームページブログでの給食レシピの紹介（毎食）
- ・学級担任への食育資料提供
- ・小学校，幼稚園の給食試食会での保護者への講話
- ・教育実習生（別科生）への講話

(2) 研究会、講演会等の開催

① 平成28年度教育研究協議会事前打合せ

- a 日時 2016年5月9日(月)
- b 会場 附属長岡小学校
- c テーマ 「社会的な知性を培う」(第2次研究第3年次)
- d 内容 分科会(研究概要の説明, 研究会単元の検討, 研究会の日程と役割分担)
- e 参加者 指導者, 司会者, 研究協力者

② 平成28年度教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a 日時 2016年5月25日(水)
- b 会場 附属長岡校園(幼稚園、小学校、中学校)
- c テーマ 「社会的な知性を培う」(第2次研究第3年次)
- d 内容 全教科等の授業公開, 授業協議会および教育講演会
 - 授業
 - ・12年間の学びをつなぐ一貫教育カリキュラムの開発
 - ・問題解決型学習における「協働型学習」の位置付け
 - ・新設教科「社会創造科」
 - 講演
 - 国連世界食糧計画元アジア局長 忍足 謙朗 氏
 - 演題「食糧を届ける～貧困, 紛争, 災害の中で～」
 - 文部科学省初等中等教育教育課程課教科調査官 向後 秀明 氏
 - 演題「グローバル化に対応した日本の英語教育改革
ー子供たちの未来をサポートするために求められることー」
- e 参加者 県内外の教員, 学生, 学部教員, 県・市町村教育委員会指導主事, 当校教員等約1200名の参加者

③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校PTA連合会主催 北信越地区総会・実践活動協議会 新潟大会

- a 日時 2016年11月10日(木)副校園長会(市内巡検, 研修会・協議会等)
11月11日(金)教育活動・授業公開, 協議会, 全体会・総会等
- b 会場 新潟大学教育学部附属新潟校園(小学校, 中学校, 特別支援学校)
「新潟グランドホテル」
- c テーマ 「附属校園の存在意義を真剣に考える
～10年後, 私たちの附属校園を存続させるために～」
- d 内容 保育・授業公開, 協議会および全体会・総会, 情報交換会・懇親会
- e 参加者 約300名 *校長, 副校長, 教諭, PTA同心役員等参加

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a 『研究紀要社会的な知性を培う第2次研究第3年次』(年1回発行)
- b 『子どもと授業』(年2回発行発行部数750部購読者数約500名)
 - 第77号 特集「生きて働く社会的知性」
 - 第78号 特集「主体的で対話的な深い学びを目指して」

② 教員の著書・論文・研究発表等

- ・「新しい算数授業」(東洋館) 笠原知明教諭
- ・「教育音楽」(音楽之友社) 小林英樹教諭
- ・「授業力&学級経営力」2017.4月号 畠山明大教諭

(4) その他

① 危機管理に対する活動

- a 大規模災害を想定した引き渡し訓練(3年目)
 - ・保護者へ引き渡しマニュアルの説明
 - ・グラウンドでの児童引き渡し訓練の実施
- b 不審者侵入対応避難訓練(12年目)
 - ・職員の対応訓練と児童の避難訓練(指導・協力:長岡警察署生活安全係)
- c 緊急電話連絡・メール配信訓練
水泳授業監視員の配置
- d インストラクターによる着衣泳指導



グラウンドでの児童引き渡し訓練

② いじめ防止に関する活動

- a 学部教員との連携による教育相談体制の充実

③ 食に関する指導

- a 栄養教諭による食育相談の充実

④ PTA組織の活性化

- a 父親の参加を促す事業「ふぞく百年の森」整備作業,
校園インディアカ大会



インストラクターによる着衣泳

⑤ 学習環境の整備

- a 普通教室にエアコン設置(リース契約による設備整備
諸経費は保護者負担による)
- b 全教室暖房用ヒーター取替
- c 普通教室二重サッシ取替
- d 体育館 LED照明取替



PTA「同心」環境整備作業

7.6 附属長岡中学校

1. 教育研究

- (1) 平成22年度より、「社会的な知性を培う」を研究テーマとして文部科学省から研究開発指定を受け、12年間の学びをつなぐ「幼・小・中一貫教育カリキュラム」を開発してきた。この研究では、子供が自立し他者と関わる「協働型学習」を推進し、新教科「社会創造科」を含め各教科を通して「持続可能な社会」の形成者をはぐくむことを目指して進められてきた。今年度5月の研究協議会では、子供が互恵的に関わって問題解決に取り組む姿が多くの公開授業の中で見られた。本研究を終えるにあたり、今年度は1年間の指定延長を受け、「地域の人々や異学年との協働」や「持続可能な社会を創るための構成概念（有限性や多様性など）」などの社会創造科の理念を、「総合的な学習」等の時間の中に残していけるように、「社会創造科」の年間単元配列表や学習内容の見直しを行った。
- (2) 「統合的な学びの実現」を軸とする教科横断型のカリキュラム開発を新研究のテーマとして、平成29年度研究開発学校制度に応募すると同時に、新たな課題に対して最適解や納得解を見出すことのできる子供をはぐくむための授業開発研究に取り組んでいる。特に授業実践にあたっては、認知的・社会的・実践的という3つの側面が互いに結び付きながら有効に含まれているかどうかを検討する、新たな授業開発の手法が進められている。

2. 教育研究協議会

平成28年5月25日（水）に附属長岡校園（幼稚園，小学校，中学校）を会場とし、「社会的な知性を培う」（第2次最終年次研究）をテーマとして開催された。社会創造科（小中合同授業），および各教科で公開授業が行われた。また，国連世界食糧計画元アジア局長忍足謙朗氏が「食料を届ける ～貧困，紛争，災害の中で～」の演題で，また文部科学省初等中等教育局教科調査官向後秀明氏が「グローバル化に対応した日本の英語教育改革」を演題として講演を行った。参加者は，県内外教員，学生，学部教員，教育委員会指導主事，北京師範大学南奥実験校等，校園全体で1148名（うち中学校355名）を数え，県内外のモデル校の役割を果たしていることを示した。



研究協議会における技術科公開授業の様子

3. 地域教育委員会，大学との連携を図った教員研修・教員養成への協力

- (1) 市教育委員会が行う教員の指導力向上を目指す取組への協力
長岡市内の現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾事業」や市教育センター主催研修講座，および中越地区の教員研修会に対し，国語，数学，理科，音楽，美術，技術，英語の教科において計7回の講師派遣を行った。また，授業公開を5回（道徳，数学3回，音楽）行った。
- (2) 大学との連携を図った現職教員研修への協力
教員免許更新講習において，大学教員と連携し，ゲストスピーカーとして職員を派遣した。
- (3) 大学からの教育実習生受け入れ
3種類の教育実習に関して，教育学部のみならず，他学部からも実習生を受け入れ，指導を行った（本実習：春期27名，秋期23名，2年次観察・参加実習69名，1年次入門教育実習2コース24名）。

4. グローバル人材の育成

- (1) 新潟大学留学生による英語授業協力を3回行い、17名の留学生が参加した。
- (2) 7月に国連WFP元アジア地域局長の忍足謙朗氏，10月に第58次南極観測隊長として南極に赴く直前の国立極地研究所副所長の本吉洋一氏を招聘し，生徒主体の運営による講演会を開催した。
- (3) 2年生修学旅行において，沖縄の留学生との交流およびホストファミリーとの英語を活用したプログラム体験を行った。

8. 外部資金

8.1 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、同事業に積極的に申請を行っている。

現在、同事業を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。また、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っており、今年度は1件が採択された。

平成28年度における採択状況は下表のとおりである。

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研究課題名
25	基盤研究(B)	麓 慎一	帝政ロシアによる露領アメリカ経営と環太平洋における海洋秩序の変容について
26	基盤研究(B)	伊野 義博	掛け合い歌のメカニズムを応用した音楽学習過程の研究—アジアの民俗音楽調査をもとに
27	基盤研究(B)	土佐 幸子	日米6大学連携で能動的学習型へ教授法の質的転換を図る大学物理教育イノベーション
27	基盤研究(B)	中島 伸子	病気やケガに関する子どもの理解・表現と大人の対応に関する研究
28	基盤研究(B)	鈴木 恵	学びのプロセスと日本語書記史を統合する学習材・カリキュラムの開発と検証
25	基盤研究(C)	杉澤 武俊	心理学研究における統計的検定手法の見直しと改善
25	基盤研究(C)	神村 栄一	パチンコ遊技嗜癖の類型に応じたモジュール介入付き集団認知行動療法の効果検討
26	基盤研究(C)	飯野 由香利	ヒューマンファクタを考慮した学校における住環境の改善と環境制御体制の構築
26	基盤研究(C)	志賀 隆	博物館植物標本の生存組織を用いた絶滅集団の復元：組織培養法の確立と普及
26	基盤研究(C)	柳 沼 宏 寿	スクリーンリテラシーの日豪比較研究～多文化主義政策の「学びの構造」分析を通して～
26	基盤研究(C)	足立 幸子	読者反応理論に基づく国際標準を反映した児童・生徒・教員用読書力評価パッケージ開発
26	基盤研究(C)	笠井 直美	性犯罪被害対策及び人工妊娠中絶防止の緊急避妊薬情報を含む学校での性教育方法の検討
26	基盤研究(C)	有川 宏幸	合理的配慮の提供に活かす就学前後の支援情報の機能的翻訳に関する研究
26	基盤研究(C)	鈴木 賢治	粗大粒を持つ部材のX線応力評価の確立
27	基盤研究(C)	伏木 忠義	調査不能バイアスの調整に有用な変数に関する研究
27	基盤研究(C)	山口 智子	コメ離れに対応する海藻つなぎ米粉麺の製造と特性評価
27	基盤研究(C)	藤林 紀枝	古海底火山を用いた理科教育・災害科学教育
27	基盤研究(C)	石垣 健二	体育学独自の研究方法としての「間身体的アプローチ」の構想
27	基盤研究(C)	大庭 昌昭	グレーディング能力を基にした平泳ぎの泳動作分析
27	基盤研究(C)	笠巻 純一	大学生の健康行動変容に環境要因はいかに影響するか：3ヵ年の縦断的調査から
27	基盤研究(C)	本間 伸輔	英語・日本語数量詞句の作用域決定を司る統語的・意味的要因に関する理論的研究
27	基盤研究(C)	加藤 茂夫	Siriを利用した英語音読評価ソフトの開発と英語習熟度測定への活用可能性の探求
27	基盤研究(C)	世取 山洋介	福祉国家型教育財政構想の制度化の歴史的展開と現代立憲主義による正当化に関する研究
27	基盤研究(C)	小久保 美子	機能的磁気共鳴画像法による主体的な読書活動の学習効果に関する実証的研究
27	基盤研究(C)	柴田 透	公民・経済分野における理論的対立の歴史的分析及び教育方法の研究
27	基盤研究(C)	張 間 忠 人	完全交叉のレフシェッツ性問題に関する研究
28	基盤研究(C)	佐藤 亮一	レーダポラリメトリによる自然災害発生時の被災住宅群識別および緊急救助用陸路検出
28	基盤研究(C)	岡野 勉	国定算術教科書の改訂過程に関する研究：教育実践研究との関連を基本的観点として
28	基盤研究(C)	松井 賢二	大学生のキャリア成熟の変容を考慮に入れた包括的キャリア支援プログラムの開発研究
28	基盤研究(C)	長谷川 敬三	等質および局所等質多様体上の複素幾何構造についての研究
28	基盤研究(C)	高 清 水 康 博	リアス式海岸や海成段丘から津波堆積物を認定する手法の構築
28	挑戦的萌芽研究	土佐 幸子	探究的指導法を軸として高校物理授業の課題点を明らかにする4カ国比較研究
28	挑戦的萌芽研究	麓 慎一	水産業の国際的展開と地域社会の変容—世界と東アジアをつなぐ日本—
25	若手研究(B)	田中 恒彦	うつ病を合併したパニック障害に対するアクセプタンス&コミットメントセラピーの効果
25	若手研究(B)	興治 文子	明治中期の理科筆記が紐解く日本型科学教育の源流と現代への具現化
25	若手研究(B)	岸本 功	超弦の場の理論における数値的手法に基づく古典解の解析
26	若手研究(B)	檜皮 貴子	体づくり運動における「ほぐし」と「体力向上」の融合型教材試案
26	若手研究(B)	岡田 祥平	音声学的視点を踏まえた現代日本語文法記述の精緻化の試み
27	若手研究(B)	小野 映介	弥生時代の沖積低地を対象としたジオアーケオロジー研究
27	若手研究(B)	古田 徹也	形態学としてのウィトゲンシュタイン哲学の解明
27	若手研究(B)	小林 繁子	近世的支配形成のダイナミクス—魔女迫害と近世国家
27	若手研究(B)	一柳 智紀	小グループでの学習に関する教師の実践知の検討
27	若手研究(B)	古田 和久	教育と職業の日本的特徴に関する実証的研究
28	若手研究(B)	天野 達郎	運動トレーニングに伴う発汗機能の改善メカニズムの解明：神経伝達物質に着目して
28	若手研究(B)	清水 文博	手書き文字の字形と学習者の主体性に関する研究—大正期から昭和初期を中心として
28	若手研究(B)	前田 洋介	コミュニティ・ガバナンスの制度と空間構造に関する日英比較研究
28	若手研究(B)	田中 誠二	戦後復興期の衛生教育に関する実証的研究
28	若手研究(B)	平尾 篤利	放電環境制御によるマイクロ部品形状創成と高精細表面改質法に関する研究
28	奨励研究	高橋 洋子	家庭洋裁・家庭編物を取り巻く状況の変遷-各種刊行物から探る60年史-

8.2 寄附金

寄附金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成28年度における寄附金の新規受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄附者	目的
釜本 健司	釜本 健司	社会科教育学における研究助成
鎌田 正喜	鎌田 正喜	抗マラリア剤の開発研究に対する助成
工藤 起来	工藤 起来	教育・研究活動に対する助成
牛山 幸彦	公益財団法人日本卓球協会	「卓球競技の配球パターンリアルタイム分析」における研究
宮蘭 衛	宮蘭 衛	中国との教育研究交流活動事業費の助成

8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成28年度における新規受託研究および受託事業は下表のとおりである。

○ 受託研究

研究担当者	委託者	研究題目
山口 智子	機能性農産物活用促進協議会	高アミロース米「越のかおり」を使ったレシピ開発
山口 智子	阿賀町	阿賀町産エゴマの栄養機能性分析と未利用部位を用いたオリジナルブランド食品開発及び評価並びに商品化について
天野 達郎	牛乳乳製品健康科学会議 一般社団法人Jミルク	運動後の血液量変化が発汗機能に及ぼす影響：牛乳を用いた熱中症予防のエビデンス
村山 敏夫	(株)ホットアルバム炭酸泉 タブレット	重炭酸入浴剤の血流反応と入浴効果
村山 敏夫	小千谷市	小千谷市「おぢや健康こいこいポイント」事業
神村 栄一	独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター	ギャンブル障害の治療効果判定ツールの作成についての研究

○ 受託事業

事業担当者	委託者	事業題目
英語科	文部科学省	小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業
向山 恭一	公益財団法人新潟県国際 交流協会	国際交流インストラクター養成事業
山口 智子	いもジェンヌ農商工連携 協議会	いもジェンヌを利用した加工食品の開発及びアピール支援事業
橋本 学	新潟県	集落活性化調査研究業務（新発田市米倉集落）
雲尾 周	新潟市	商店街等活性化研究・実践事業

8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成28年度における新規共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目
山口 智子	(有)新津興器	アイスクリームレシピの共同開発
橋本 学	小柳建設(株)	景観・環境を意識した浚渫船のデザイン研究
牛山 幸彦	(株)シマノ	ペダリング技術・タイプの違いが筋疲労に及ぼす影響の解明

(巻末資料)

平成28年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	151	98	48	46
		教育心理学専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	135	507	365	157	149
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
		音楽教育専修					
美術教育専修							
保健体育専修							
推薦入学		40	95	95	37	37	
小 計		220	753	558	242	232	
学習社会ネットワーク課程 学習社会ネットワークコース		45	246	156	49	48	
生活科学課程 生活科学コース		15	71	42	18	17	
健康スポーツ科学課程		30	186	160	33	33	
ヘルスプロモーションコース		(10)					
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	67	66	27	27	
	造形表現コース	20	73	47	23	22	
	書表現コース	15	54	53	17	17	
	小 計		60	194	166	67	66
合 計		370	1,450	1,082	409	396	

平成28年度新潟大学大学院教育学研究科(修士課程)入学者数

平成28年4月1日

一般入試, 中教免取得希望者のための特別入試, 外国人留学生特別入試

専攻	分野・専修	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	備考	
学校教育	学校教育学分野	5人	4 (2)	3 (2)	3 (2)	2 (2)		
	教育心理学分野		0	0	0	0		
	臨床心理学分野		7	7	3	2		
	特別支援教育分野		2	2	2	2	現職教員1名含む	
	小計	5人	13 (2)	12 (2)	8 (2)	6 (2)		
教科教育	国語教育専修	27人	5 (4)	5 (4)	4 (3)	4 (3)		
	社会科教育専修		4	4	2	1		
	英語教育専修		3	3	1	0		
	数学教育専修		1	1	1	1		
	理科教育専修		4	4	3	3		
	音楽教育専修		5	5	5	3		
	美術教育専修		美術	5 (1)	5 (1)	4	3	
			書道	2	2	2	2	
	保健体育専修		7	7	7	7	現職教員1名含む	
小計	27人	36 (5)	36 (5)	29 (3)	24 (3)			
合計		32人	49 (7)	48 (7)	37 (5)	30 (5)	現職教員2名含む	

備考1 ()内の数字は外国人留学生で内数。

備考2 中教免取得希望者のための特別入試について…合格者なし

平成28年度新潟大学大学院教育学研究科(専門職学位課程)教職大学院入学者数

平成28年4月1日

一般入試, 現職教員入試

専攻	コース	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	備考
教育実践開発	教育実践コース	15人	18	18	13	13	現職教員7名 学部新卒生6名
	学校経営コース		6	6	6	6	現職教員6名
合計		15人	24	24	19	19	

平成29年3月卒業(修了)者の就職内定状況

(1) 教育学部

平成29年3月19日現在

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数				就職内定者数				就職内定率 (%)			
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教員養成課程	219	16	13	16	115	59	190	15	112	57	184	93.8	97.4	96.6	96.8
学習社会ネットワーク課程	49	1	3	16	0	29	45	16	0	27	43	100.0	—	93.1	95.6
生活科学課程	15	0	1	1	1	12	14	1	1	12	14	100.0	100.0	100.0	100.0
健康スポーツ科学課程	35	10	3	2	4	16	22	2	3	16	21	100.0	75.0	100.0	95.5
芸術環境創造課程	59	7	3	7	6	36	49	6	5	33	44	85.7	83.3	91.7	89.8
計	377	34	23	42	126	152	320	40	121	145	306	95.2	96.0	95.4	95.6

(2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数				就職内定者数				就職内定率 (%)			
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教育専攻	12	0	4	2	4	2	8	2	4	2	8	100.0	100.0	100.0	100.0
教科教育専攻	32	1	3	0	21	7	28	0	19	7	26	—	90.5	100.0	92.9
計	44	1	7	2	25	9	36	2	23	9	34	100.0	92.0	100.0	94.4

(3) 養護教諭特別別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数				就職内定者数				就職内定率 (%)			
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
養護教諭特別別科	50	0	1	10	23	16	49	8	19	15	42	80.0	82.6	93.8	85.7

(注)平成28年9月卒業(修了)者を含む

教育学部附属学校生徒数

28. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼稚園	3歳児学級	1	20	20	15
	4歳児学級	1	35	35	16
	5歳児学級	1	35	35	28
新潟小学校		12	35 (6年 40)	430	415
	複式学級	3	16	48	48
長岡小学校		12	35 (6年 40)	430	372
新潟中学校		9	40	360	355
長岡中学校		9	40	360	361
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	17
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	30
合 計		57		1,778	1,675

複式学級は外数

備考

附属新潟小学校及び附属長岡小学校については、平成24年度入学児童の1学級定員が40人から35人になり、学年進行により収容定員は順次改訂されます。